

Ⅲ 研究事業

基本目的

東洋文庫は1924年に岩崎久彌氏により、モリソン（G. E. Morrison）コレクションならびに日本古典貴重資料を含む岩崎コレクションを中核とするアジアの貴重図書・資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後92年間にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者並びに市民に公開し、アジア諸地域の歴史文化に関する基礎資料を組織的かつ継続的に収集し、公開することを目的とした事業を進めてきた。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような事業を250名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀な例であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に注目される理由である。

2012－2014年度の重点事業目標

東洋文庫は、この基本目的をさらに効果的に実現するために、2012年度からは、これらの基本的な課題を推進する中で、以下の点に一層重点を置いた事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。
- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、研究成果を電子化などにより広く発信し、国際交流ならびに国際的な発進力を強化する。
- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

2015－2017年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、特に2015-17年度においては、アジア資料研究データベース構築をより効果的に進めると共に、各研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を行い、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、ひろく内外にその研究成果を発信する計画である。以下に今期の主要な事業項目を掲げる。

- (1) アジア資料研究データベースの構築
- (2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

これらを基本とし、以下の事業を具体的に行う。(1) 東洋学講座、(2) アジア言語資料ならびにアジア関連洋書資料に関するコーディコロジー（資料学）講習会、(3) すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムを各年に開催する。(4) 研究成果のデータベース化による国際発信を強め、(5) ハーバード・エンチン研究所ならびにECAAF（European Consortium for Asian Field Study）を始め協定機関との国際連携を強める。とりわけデジタル図書館としての機能を高めるため、横断的資料検索データベース作成に取り組み、アジア各地域を地域横断的に、また歴史＝現代的に比較検討し、アジア研究の総合的研究水準を高めることを目指す。これら重点目標の下に取り組みされた2017年度の事業報告を以下に記す。

1. 調査研究

東洋文庫における調査研究の位置付けは、系統的かつ継続的にアジアの各地域に関する現地の原語資料を収集し、それを現地の研究者・研究機関と共同して整理・編集し、併せて目録を作成し、世界の研究者の用に供することである。例えば、中央アジア研究においては、中央アジア出土のウイグル文

書の編集を、ロシア・サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー東洋写本研究所との協力関係・信頼関係のもと共同で行い、20年間にわたり継続して目録を編集し、2度にわたって刊行している。同様に、協力協定機関であるアメリカのハーバード・エンチン研究所や、台湾の中央研究院等との間で長年にわたって調査協力・国際共同研究・資料交換・人材交流等を行っている。このような研究機関相互の信頼関係に基づいて長期間にわたって行われる調査研究は、特定奨励費における基礎的資料調査研究の項目においてのみ行うことが可能であり、その他の競争的資金と性格を異にしている。

2017年度は、研究部に相原佳之氏を迎え、研究部の運営体制を強化するとともに、アジア研究の長い学問的伝統と国内外の研究ネットワークを有する東洋文庫の特徴を生かし、全3研究部門13研究班が20のテーマを設定した。そこでは、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解題・目録・訳註等の作成）と、それに基づく基礎研究を持続的に進めることを基本とした。その上で、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、「総合アジア圏域研究」のもとに研究成果を連結し、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進して現代アジアの複合的・動態的な把握につとめた。さらに、長期的には、そこから導き出された問題から新たな研究課題を創出し、歴史・社会・文化等、多角的な視野から解き明かすことを試みた。また、最新の研究成果を国際的に広く発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することを目指した。アジア現地基礎資料の調査研究を基本とし、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学術交流を積極的に推進したことにより、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実が図られた。全3研究部門13研究班が取り組んだ20の研究テーマは下記のとおりである。

アジア資料調査・研究のための 6 部門 13 研究班 20 テーマ

部門		研究班	アジア資料調査・研究テーマ	略号
超域アジア		総合アジア	総合アジア圏域研究（2）	—
		現代中国	現代中国の総合的研究（3）	—
		現代イスラーム	新中東・イスラーム圏における議会主義の展開と立憲体制を軸とする政治文化に関する総合的比較研究	—
歴史文化研究	東アジア	前近代中国	中国古代地域史研究—『水経注』の分析から—（2）	東ア -1
			東アジア都城の考古学的調査・研究（4）	東ア -2
			中国社会経済史用語のデータベース化	東ア -3
			前近代中国民事法令の変遷（2）	東ア -4
		近代中国	戦前・戦中期日本の華中・華南調査の研究	東ア -5
		東北アジア	近世朝鮮記録類の総合的研究	東ア -6
			満族関係資料の研究	東ア -7
			清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析：政治・社会・経済・民族・文化の展開	東ア -8
		日本	岩崎文庫貴重書の書誌的研究（3）	東ア -9
	内陸アジア	中央アジア	古ウイグル語および関連諸語文献に関する研究	内陸 -1
			近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族	内陸 -2
			敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究	内陸 -3
		チベット	チベット語文献資料の基礎研究	内陸 -4
	インド・東南アジア	インド	インド刻文史料の蒐集と研究（2）	南ア
		東南アジア	近現代東南アジア史料研究	東南
	西アジア	西アジア	イスラーム地域の比較制度研究	西ア
資料		東アジア資料	東アジア資料の研究（2）	—



※歴史文化研究部門の各研究班・グループの資料調査地域を枠と略称によって示したもの

上記の研究テーマによる調査研究活動は、アジア各地の異なる言語や伝統的慣行に基づいて歴史的に形成された地域社会の構成分類と密接に関連するものであり、便宜上、研究班の形を取ってはいるものの、東洋文庫におけるアジア全域を視野に入れた全体の研究事業と不可分の関係にあり、アジア地域研究の基礎的な構成要素を成している。これは、他の競争的資金では実現が難しく、創設以来 92 年間の学問的伝統、資料の収集蓄積、および国内外の研究ネットワークを有する研究図書館として、東洋文庫が特定奨励費補助金によって実施するのにふさわしい事業である。なお、これらの活動を支える個別のかつ短期的な研究活動については、特定奨励費補助金以外の競争的資金を積極的に活用した。

具体的には、上記の研究活動を、(1) 研究データベースの構築、(2) 資料調査・研究の推進、(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催、(4) 研究成果の刊行・発信の強化、(5) 若手研究者の育成、の項目を設定して連携的に総合し、専任研究員がとりまとめ役となり、全アジア的規模の研究に取り組んだ。

A. 資料調査・研究テーマごとの研究体制

○超域アジア研究

〈超域アジア研究部門〉

総合アジア圏域研究班「総合アジア圏域研究（2）」

「コディコロジー・紙料調査による蔵書調査研究」

「歴史地図研究—『大明地理之図』調査研究」

「モリソン家の人々—モリソンコレクション将来 100 周年記念事業」

総 括	斯波義信◎
副総括	濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎
現代中国	毛里和子、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	三浦 徹、池田美佐子、粕谷 元、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信◎*、山本英史、清水信行
近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、松村 潤、石橋崇雄、細谷良夫、加藤直人、 小沼孝博
日 本	今西裕一郎
中央アジア	梅村 坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	小名康之
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹*、高橋英海
東アジア資料	斯波義信◎*、塚原東吾、江南和幸、大澤顯浩、 高橋公明
（研究補助者）	徐 小潔、太田啓子
（◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ）	

現代中国研究班「現代中国の総合的研究（3）」

総 括	村田雄二郎*
副総括	毛里和子*
政 治	毛里和子*、天児 慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐 亮、 平野 聡、森川裕二、松村史紀、平川幸子、神田豊隆、 堀内賢志
経 済	中兼和津次*、巖 善平、丸川知雄、寶劔久俊、 唐 成、峰 毅
国際関係・文化	村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、

資 料	田中明彦、川島 真、貴志俊彦、砂山幸雄、 高田幸男、古田和子、土田哲夫、尾形洋一、 大澤 肇、中村元哉、加藤恵美、小浜正子、 田中 仁、内田知行、相原佳之、青山治世 斯波義信◎*、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、 村上 衛、岡本隆司
-----	---

現代イスラーム研究班「新中東・イスラーム圏における議会主義の展開と
立憲体制を軸とする政治文化に関する総合的比較研究」

総 括	三浦 徹*
副総括	小松久男*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、 松本 弘、鈴木恵美、堀井聡江
イラン	吉村慎太郎、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均
トルコ	粕谷 元*、小松久男*、設楽國廣、江川ひかり、 大河原知樹、秋葉 淳、澤江史子、佐々木紳
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦

○歴史文化研究

〈東アジア研究部門〉

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究－『水経注』の分析から－（2）」

総 括	太田幸男*
副総括	窪添慶文 多田狷介、松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、靱山 明、 塩沢裕仁、池田雄一、金子修一、川合 安

「東アジア都城の考古学的調査・研究（4）」

総 括	清水信行*
副総括	妹尾達彦 早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、金沢 陽、 高久健二、菅頭明日香

「中国社会経済史用語のデータベース化」

総括 斯波義信◎*
副総括 渡辺紘良
梅原 郁、大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、廣瀬紳一、
石川重雄、土肥祐子

「前近代中国民事法令の変遷 (2)」

総括 山本英史*
副総括 鶴見尚弘
南宋 大澤正昭*、青木 敦*、小川快之
元代 鈴木立子
明代 鶴見尚弘*
明清代 岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

近代中国研究班「戦前・戦中期日本の華中・華南調査の研究」

総括 内山雅生*
副総括 久保 亨
経 済 久保 亨*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎、
吉田建一郎
政 治 本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志
文化・社会 内山雅生*、高田幸男*、佐藤仁史、浅田進史、山本 真、
瀧下彩子◎

東北アジア研究班

「近世朝鮮記録類の総合的研究」

総括 六反田豊*
副総括 吉田光男
糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、
山内弘一、山内民博

「満族関係資料の研究」

総括 松村 潤*
副総括 中見立夫
満洲語档案 加藤直人*
楠木賢道、細谷良夫*、柳澤 明、杉山清彦

「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析：政治・社会・経済
民族・文化の展開」

総 括 石橋崇雄*
副総括 C. A. ダニエルス
岸本美緒*、柳澤 明*、武内房司

日本研究班「岩崎文庫貴重書の書誌的研究（3）」

総 括 今西祐一郎*
副総括 深沢真二
語 学 柳田征司、石塚晴通
文 学 深沢真二*、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、朽尾 武、
宮崎修多
思想・文化 齋藤真麻理、和田恭幸

〈内陸アジア研究部門〉

中央アジア研究班

「古ウイグル語および関連諸語文献に関する研究」

総 括 梅村 坦*
副総括 林 俊雄
古ウイグル語 P. ツィーメ、小田壽典、松井 太、橘堂晃一、
森安孝夫
ソグド語・イラン語 吉田 豊
コータン語ほか 熊本 裕

「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族」

総 括 小松久男*
副総括 新免 康
濱田正美、長縄宣博、堀川 徹、濱本真実

「敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究」

総 括 氣賀澤保規
副総括 片山章雄
土肥義和*、石塚晴通*、妹尾達彦*、荒川正晴、關尾史郎、
池田 温、岡野 誠

チベット研究班「チベット語文献資料の基礎研究」

総 括 吉水千鶴子*

副総括	星 泉
仏教思想	川崎信定
敦煌文献	武内紹人
ボン教	御牧克己
歴 史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言 語	星 泉*

〈インド・東南アジア研究部門〉

インド研究班「インド刻文史料の蒐集と研究 (2)」

総 括	小名康之*
副総括	太田信宏
古代サンスクリット文献	吉水清孝
中世サンスクリット文献	水野善文
中世前期デカン・サンスクリット文献	石川 寛
中世後期デカン・サンスクリット文献	太田信宏*
中世北インド・サンスクリット刻文・文献	三田昌彦
近世北インド・ペルシャ語文献	小名康之*
近世北インド・ウルドゥー語文献	萩田 博
中世インド洋海域交易史	栗山保之

東南アジア研究班「近現代東南アジア史料研究」

総 括	弘末雅士*
副総括	嶋尾 稔
	青山 亨、北川香子、坪井祐司、島田竜登、東條哲郎、 牧野元紀◎、飯島明子、山口元樹

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班「イスラーム地域の比較制度研究」

総 括	三浦 徹*
副総括	近藤信彰
アラブ	大河原知樹*、佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広◎、

	吉村武典、亀谷 学
トルコ	永田雄三、林佳世子、高松洋一、秋葉 淳*
イラン	清水宏祐、近藤信彰、守川知子
中央アジア	堀川 徹*、磯貝健一、矢島洋一

○資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班「東アジア資料の研究（2）」

総 括	斯波義信◎*
副総括	上田 望、田仲一成◎*
日 本	浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之
中 国	丘山 新、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、戸倉英美、 濱下武志◎*、馬場英子、末成道男、藤井省三、邵 迎建
朝 鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
梅原考古資料	山村義照◎
情 報	廣瀬紳一

B. 調査研究における重点活動方針

(1) 研究データベースの構築

担当者： 研究部 會谷佳光、相原佳之、山村義照

研究データベースの基本方針として、単なる書誌・画像・動画のデジタル化にとどまらず、東洋文庫の研究員・研究班の長年に渡る研究活動の成果について、史資料・写真・地図・パンフレット・論文・解題・訳注・索引（語彙・用語・固有名詞等）・研究ノートなど多様な形態の研究データを保存・管理し、複層的かつ横断的に検索可能な汎用性の高いデータベースを構築することを目指し、その対象となる書籍・論文・その他資料等へのリンクや、他機関との連携も視野に入れて検討を進めた。また、2015年度に設置した全研究班が参加する「研究データベース共同研究グループ」が中心となって研究

情報発信検討委員会を開催し、研究対象地域別に選出された委員により、研究データベースの企画立案を行い、かつ進捗・公開状況について報告・協議した。

東洋文庫の研究成果の発信強化のため、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」を一層充実させ、論文等の登録件数が計 3,320 件に達した (<https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp>)。また東洋学講座等の講演会の情報や動画を登録する講演会アーカイブは 394 件に達した (<http://124.33.215.234/lecture/>)。

〔研究実施概要〕

総合アジア圏域研究では、新たに、東洋文庫現代中国研究資料室でデジタルライブラリーの構築を担当した相原佳之氏を研究データベース共同研究グループのメンバーに迎え、研究データベースの構築について、2015～2017 年度の試行期から、2018～2020 年度の開発期に移るための準備を行った。具体的には、試行期に提案やデータ収集・データベース開発・公開のあった各計画について進捗状況の確認と見直しを行うと同時に、右記の研究データベースのコンセプト（上部）と全体のタイムスケジュール（下部）を定め、若手理系研究者中村覚氏（東京大学情報基盤センター学術情報研究部門助教）等の協力を得て、次期の研究データベース開発に向けた検討を重ねた。

また、2018 年 2 月 16 日、各研究班の運営委員をはじめとする研究員の参加を得て、アジア資料学研究シリーズ「文理融合型アジア資料学」研究講習会を開催し、會谷佳光主幹研究員が「アジア資料研究データベースの構築—研究データの保存・管理・公開に向けて」と題する研究データベースの構想について説明を行い、開発期に向けて東洋文庫全体で取り組むことを確認した。

細谷良夫研究員より寄贈された江戸時代に書写された『大明地理之図』4 軸を素材に、地図上に記載された地名等の全情報 4,199 件をリスト化し、その途中経過について、2018 年 2 月 15 日開催の東洋文庫地図研究会にて報告してデータベース構築の方向性等について議論を行った。

2015 年度に作成した「新版唐代墓誌所在総合目録（増補版）データベース」（データ総数 8,737 件）を一般公開した (http://124.33.215.234/85_toyo2/sweb/sweb_index.html)。2017 年 9 月～2018 年 3 月のアクセス数は計 22,232 件であった。

現代中国研究では、資料グループが東洋文庫の蔵書中、約 6,200 点に及ぶ G. E. モリソン収集のパンフレット資料集を研究・整理しつつ、内外からの公

総合的アジア研究データベースのコンセプト

研究データの保存・管理・公開が一体化した、人文系に特化した研究データベースを構築し、国際標準として国内外に発信する。

例：WEB公開によるデータの利活用、外部による論文の検証etc

研究データの収集

研究データの保存

例：文献・地図・写真・動画・図表・訳注・索引etc

研究データを活用した論文の作成

研究データの公開

研究データの管理

例：研究データベースシステムによる分類・整理・分析、文庫内部による論文の検証etc

8



開希望に即応できる DB に加工して、成果を公開する作業を進めた。

現代イスラーム研究では、「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース」のアップデートを日本中東学会と連携して継続し、新たに1,580件の文献情報を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載し、総数は計56,120件となった。また、中東・中央アジアの歴史的に重要な諸法令を翻訳して順次データベース化していく作業の一環として、トルコグループでは粕谷元編『トルコにおける議会制の展開』（財団法人東洋文庫、2007年）所収のオスマン帝国憲法（1876年）・トルコ共和国憲法（1924年）、八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』（公益財団法人東洋文庫、2014年）所収のトルコ大国民議会内規（1927年）を適宜改訳するとともに、これらに注釈と解題を付す作業を進めた。イラングループでは、イラン憲法（1906年基本法と1907年補則）の翻訳作業に着手した。

東アジア研究では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の4研究班

を組織し、分担して研究データベースの構築に取り組んだ。

前近代中国研究班の中国社会経済史用語のデータベース化グループは、『中国社会経済史用語解』の増補作業の一環として、『法制篇』の用語解データベース編集作業を継続した。具体的には法制史の事典（辞典）・研究書・訳注から約一万項目の語彙を抽出して、用語解の基礎原稿を作成した。その際、『中国社会経済史用語解』（刊行本、データベース。<http://124.33.215.236/yogokaipen/index.php>）と同様、各語彙の用例上の広狭、一般語義と特殊語義の区別に即して検索できるよう、『法制篇』の範疇下に第1レイヤから第3レイヤまでの分類を順次施して整理した（2018年度にデータベース版下を公開の予定）。

前近代中国民事法令の変遷グループは、小川快之編「宋—清代法秩序民法関係文献目録」（大島立子編『前近代中国の法と社会—成果と課題—』（財団法人東洋文庫、2009年）所収）について関係文献を増補し、これまでの目録情報と併せてデータベース化すべく、その準備作業を進めた。

近代中国研究班は、地域研究として発表された「華中」「華南」に関する諸研究に関する研究史整理を踏まえて、膨大な数に上る戦前・戦中期の日本による調査報告類を整理分類する作業を進めてきた。特に東洋文庫所蔵の資料を中心に、中国大陆に限らず、台湾及び香港での研究も視野に入れて、「台湾総督府文書」等の文献を中心に、メンバーおよび研究協力者による分析を試み、研究データベースの構築に向けた研究活動を持続的に続けた。さらに2018年度から開始する来期の事業計画の準備として、今まで収集した資料も含めて、東洋文庫所蔵の戦前・戦中期の日本の研究機関等による中国調査とそこから派生する日本人の中国認識の特徴を整理するための研究計画を作成し、研究成果をデータベース化する際のポイントを検討した。

東北アジア研究班の朝鮮グループは、既刊の研究成果『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（2004年）、『日本所在近世朝鮮記録類解題』（2009年）の情報をデータベース化して公開するためのデータ点検等を行った。

満族関係資料研究グループは、1980年代以来中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東における調査で撮影・収集した満族（清朝）関係資料（写真、地図、パンフレット、文書等）について整理・研究を進め、その研究データベース化に向けて、中国絵はがき（日本やソ連／ロシアのものを若干含む）計937件のリスト化、および『尚氏宗譜』（全6巻）、『尚氏宗譜 白永貞書端』（全11巻付1巻）、『尚氏名諱録』、『千秋如在続（尚氏家則）』計2,525頁のPDF化を実施した。

清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析グループは、研究データベースの拡充を念頭に、東洋文庫にのみ収蔵される文献資料類のうち、清朝の国家支配構造を反映している祭祀儀礼資料類の中から、特に文献史料として重要な意味を持つ『壇廟祭祀節次』を取り上げて、清朝の国家支配構造を反映する祭祀儀礼の総合研究の一環としてデジタル手法の導入による資料検証ならびに清朝宮廷儀礼の復元作業を、新たな長期研究課題として設定し、その基礎準備作業を進めた。クリスチャン・ダニエルズ研究員が雲南省で収集して東洋文庫に寄贈した碑文資料 157 件について目録データの作成を進めた。

日本研究班は、岩崎文庫の目録の整備・修訂を目指し、東洋文庫ホームページに公開されている岩崎文庫貴重書目録のメタデータを Excel ファイル化して、書誌情報の確認・修正を進めた。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの 2 研究班を組織し、分担して研究データベースの構築に取り組んだ。

中央アジア研究班の古ウイグル語および関連諸語文献研究グループは、サンクトペテルブルクのロシア科学アカデミー (RAS) 東洋写本研究所 (IOM) のセリンディア・コレクション (SIC) に置かれたウイグル古文書研究グループと連絡を取り合いながら、すでに東洋文庫内の研究ネットワークに構築した同所のウイグル古文獻仮目録第 2 版のデータベース (総データ数 5,339 件) について、約 5,600 点の断片類の表裏にわたる詳細な文字・言語・内容の新規追加を行った。また、データベースを構築したサーバがしばしば不調に陥ったことから、データベースの再構築とともに、サーバ機能の改善を実施した。

近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族グループは、東洋文庫が最近収集した 1991 年のソ連解体前後の中央アジアの新聞資料、およびロシア革命前後の中央アジアにおける定期刊行物資料のデジタル化を行った。これらは、東洋文庫の基礎資料の充実に貢献するとともに、将来のデータベース化に備えたものである。

敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究グループは、土肥義和研究員による長年にわたる世界の敦煌・吐魯番等文書の実物調査、その釈読 (釈文作成) の成果物である多数のノートについて、貴重な情報や独自の釈読・解釈の跡が確認され、その公開は学界にとって有意義であると認められることから、ノート内容の把握と文書との対象作業に取り組んだ。早急に整理を終えてデータベース化することで、研究員によって蓄積された研究データの保存・公開のモデルケースとして公開する予定である。

チベット研究班は、チベット人研究協力者の協力のもと河口慧海請来文献のうち手書きの筆記体写本を校訂し、電子テキスト・データベース計 520 頁を作成した。また、河口慧海請来文献のうち世界的に知られた写本大藏經を電子データ化するための調査を行った。

インド・東南アジア研究では、東南アジア研究班が、明治期から第二次世界大戦前夜までの日本の東南アジア関係の文献を収集整理し、そのデータベース化を進め、インドネシアならびにそれを含む地域に関する文献については、ほぼデータベース化を完了させた（総数 636 件）。それらの文献の内容の概要を記すことで、東洋文庫の活動と連関する日本のアジア観の展開を研究するための基礎データを作成した。

東アジア資料研究では、動画データの充実を重点目標とし、中国祭祀演劇動画、中国講唱芸能動画、東アジア人類学動画の補充増強を行い、潮劇「三闖宮」「斬皇袍」「劉明珠」「趙少卿」、いずれも長編の動画を公開した (<http://124.33.215.236/movie/VIII-7/VIII-7.html> 他)。

(2) 資料調査・研究の推進

担当者： 研究部 會谷佳光、相原佳之、徐 小潔、太田啓子

アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫であるからこそ実現可能な特徴ある研究を、アジア全体を視野に入れて多角的に推進する。それとともに、アジアの現状と密接に関連する各民族の個性豊かな歴史と文化の研究に基礎的かつ長期的に取り組むため、地域別・時代別に、あるいは周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を視野に入れた研究を推進する。さらに基礎資料研究、現地研究、主題研究など多分野間、かつ国際間の比較研究を行うことで、大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究が可能となる。また、研究成果の検討・研鑽・発表の場として、東洋文庫内外の研究者や異分野の専門家・若手研究者を集めた研究会・講演会を開催する。

〔研究実施概要〕

総合アジア圏域研究では、東洋文庫等が所蔵するアジア・ヨーロッパ各地の書物に用いられた紙を対象に、精密顕微鏡による紙の分析調査を行い、その紙質・時代・産地等に関するデータを収集した。具体的には、『大明地理之

図』、および清朝の皇史宬旧蔵の大紅綾本『康熙帝実録』に用いられた紙と彩色・枠線等に用いられた顔料の調査・分析等を行った。精密顕微鏡による資料の素材調査・分析は、2018～2020 年度において、東洋文庫が学術団体として取り組む特色ある研究事業として重点化しているため、2018 年 2 月 16 日、各研究班の運営委員をはじめとする研究員の参加により、アジア資料学研究シリーズ「文理融合型アジア資料学」研究講習会を開催し、徐小潔若手研究員、石塚晴通研究員、江南和幸研究員が精密顕微鏡による研究成果の具体例を報告するとともに、精密顕微鏡や簡易調査用のデジタルカメラの使用方法を説明するなど、文理融合型アジア資料学に東洋文庫全体として取り組むための土台作りを行った。

歴史地図研究については、東洋文庫内外の諸分野の専門家が参集して地図研究会を開催し、2017 年 7 月 19 日に大澤顯浩研究員が「中国の山水図式地図」、高橋公明研究員が「『大明地理之図』の合成と分解」、2018 年 2 月 15 日に高橋公明研究員が「系譜と合成—東洋文庫蔵「大明地理之図」」と題する研究報告を行い、活発な議論が行われた。

現代中国研究では、東洋文庫の現代中国研究資料室（人間文化研究機構・現代中国地域研究プログラム拠点、2016 年度で事業終了）のデータベース公開の成果を活かしつつ、台湾中央研究院、国史館、華東師範大学当代中国研究センターなど海外の諸機関とも緊密に連携して、文献・図画像資料の調査、収集、整理につとめた。さらに、東洋文庫が所蔵するモリソンパンフレットを対象とし、これと同時代の海外、国内の関連資料とを相互に参照しながら学際的に研究し、合わせて各パンフレットの記述内容の英文要約を編集してデータベース公開する作業を進めた。

現代イスラーム研究では、2015 年度以来、地域や国別に進展しがちな研究をより深化させるため、画期となる事件や事象について、地域や国を横断する構造変動と連関づけて議論するための研究セミナー「近現代の構造変動」を開催しており、2017 年度は 2017 年 12 月 2 日に第 5 回「マグリブの政治変動」を開催した。私市正年（上智大学総合グローバル学部教授）の研究報告「アルジェリア政治体制の変容と現状—権力構造からの一考察」、鷹木恵子（桜美林大学リベラルアーツ学群教授）のコメントにより、マグリブにおける政治変動の諸論点や諸課題がグループを横断して共有された。またトルコグループが「オスマン民法典（メジェッレ）」アラビア語版 900 条までの日本語翻訳・検討を行うとともに、語彙集の作成を並行して進めた。

東アジア研究では、前近代中国・近代中国・東北アジア・日本の 4 研究班

を組織し、分担して資料調査・研究に取り組んだ。

前近代中国研究班では、古代地域史研究グループが、中国古代の地域社会の構造を検討するため、月2回の定例研究会を通して、『水経注』（原典6世紀、中国最古の地理書）を注文、疏文まで精読し、かつ考古学上の諸発掘成果や衛星地図などと合わせて歴史地理学的方法によって分析を行い、巻16穀水編の検討をほぼ完了し、2018年度の訳注刊行に目途をつけた。その一方、中国古代史研究に必須の簡牘研究にも取り組み、月2回の定例研究会を通して、張家山漢簡二年律令（津関令）を講読し、「境界」をテーマに多方面にわたって意見交換するとともに、山東省を訪問し、戦国斉の遺跡や山東博物館で開催された「書於竹帛」展での簡牘調査を行った。さらに新たに公刊された『嶽麓秦簡』（肆）所載の律令について研究報告と討論を行った。

「モノ」に焦点を当てた研究として、東アジア都城の考古学的調査・研究グループは、中国、朝鮮半島、ロシア沿海州の都城・古城に関する文献の整理と内容の検討を行うと共に、中国東北地方、沿海州の渤海墓地遺跡について、関係の論文の翻訳や論文執筆を通して、これまでの研究の総括を行った。ロシア研究者の協力のもと、ロシア沿海地方における土城から検出された門遺構の集成とそれらの遺跡から出土した鍵・錠前の集成を行った。

中国社会経済史用語のデータベース化グループは、明代の『日用類書』シリーズに収まる法制・商業・算法・医学・仏教関係の史料と語釈に対し調査・研究を行ってきたが、その中から『新刻天下四民便覧三台万用正宗』の巻8〈律令門〉・巻21〈商旅門〉・巻22〈算法門〉についての訓読と語釈を終えたので、2018年度に『三台万用正宗訳注（I）〈律令門〉〈商旅門〉〈算法門〉』と題してデータベース公開し、語釈を付した用語を編集して2019年度以降の「増補版中国社会経済史用語解」の作成と公開に備えた。『唐宋編年史料語彙索引（I）』（http://124.33.215.236/tosohennen/tosohen_query_input.php）の増補作業とともに、同じく梅原郁研究員寄贈の「元明時代社会経済史用語索引資料」約4万件の編集作業の準備を始めた。以上の一連の〈中国社会経済史用語解〉作成作業は、東洋文庫の開設以来一貫して行われ蓄積されてきたものであって、中国前近代における基層社会の重要語彙に対する調査研究の蓄積をベースとし、さらに発展させる努力である。加えて、語彙検索の工具としての在来中国製、日本製の辞書が集録する用語は、伝統漢学を解読する工具にとどまるものが大半を占め、社会経済の日常生活の史料である俗語・俗文、ないし雅俗を混用した語彙ないし文章を読み解くための工具の提供が著しく不足してきた。本計画は、中国基層社会の実態を究明するための工具

を作成し、これを《電子辞書》として公開することを目指している。

前近代中国民事法令の変遷グループは、2016 年度以来進めてきた『中国近世法制史料読解ハンドブック』（仮題）がほぼ完成し、2018 年度に刊行する目途をつけた。本書は、大学院生・若手研究者が東洋文庫所蔵の中国法制関係の史料を用いて「法と社会」の研究を行うための入門ハンドブックとして作成するものであり、本書を通して法制史料の基礎読解能力を体得することが期待される。このことは中国法制史・法社会史研究の継承・発展にとっても非常に有益である。

近代中国研究班は、前年度に引き続き、南京大学や中山大学、華東師範大学等、現地で戦前・戦中期の日本側史料を活用している中国人研究者・研究機関との学術交流を実施し、「華中」「華南」地域の実態に関して先端的研究内容を踏まえて把握した。また、上海社会科学院の研究者等とも学術交流を実施し、20 世紀の日本人が持った中国認識の実像を明らかにするとともに、当該期の中国の学界における日本の中国研究に関する関心と分析等も検討することができた。さらに日本では研究が手薄であった日本海軍関係の機関による海南島を中心とした「華南」調査に関して、台湾の中央研究院の研究者の援助を得て、資料収集とその歴史的意味について検討を実施した。また戦後日本の学界でほとんど利用されることがなかった台南市立図書館の日本語資料に関する調査も実施した。

東北アジア研究班の朝鮮グループは、『日本所在近世朝鮮記録類解題』（2009 年）の増補改訂版の編集・刊行を目指して追加調査を実施した。具体的には、これまでの調査で得られた各種文献記録類の書誌情報の再整理・再点検を行い、未調査の関連文献の所蔵機関等と対象文献記録類のリストアップ作業を行った。

満族関係資料研究グループは、清代満洲語文書、とくに東洋文庫所蔵「鑲紅旗檔」の研究を継続実施した。さらに、国際学術交流の一環として、中国を代表する満洲語文書の研究機関である吉林師範大学満族文化研究所との研究連携の準備を進めた。

清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析グループは、準備途上のまま未刊となっている【TBRL：『清代諸領域の歴史的構造分析』1／清朝初期政治史研究（1）】を 2019 年度に、【TBRL：『清代諸領域の歴史的構造分析』2／清朝祭祀儀礼研究（1）『壇廟祭祀節次』】を 2020 年度に出版するための準備を進めた。

海外から写真方式で蒐集した『清代旗地則例』漢文版の公開に続き、清代

政治・経済・民族・文化の各専門研究領域をもとに、海外の図書館・檔案館・研究機関等に所蔵される檔案文献史料類のひとつ『鑲紅旗檔』の嘉慶年間までの檔案類について、マイクロフィルム方式や新たなデジタル化方式による整理・分析作業に関する検討を進めた。

日本研究班は、既刊『岩崎文庫貴重書書誌解題』Ⅰ～Ⅷに引き続き、Ⅸとして2018年度の公刊を目指し、岩崎文庫所蔵の芸能関係の古典籍について書誌研究を実施した。同文庫の目録では、謡曲・狂言・歌舞音曲・猿楽・幸若舞曲の名称で、これまでの解題に取り上げられていない資料がなお35点ほどあり、それらを中心に周縁分野の資料を合わせ約100点について書誌解題の執筆を進めた。合わせて、デジタル画像のデータベース公開に向け、撮影箇所を選定作業に入った。

内陸アジア研究では、中央アジア・チベットの2研究班を組織し、分担して資料調査・研究に取り組んだ。

中央アジア研究班の古ウイグル語および関連諸語文献研究グループは、ロシア科学アカデミー(RAS)東洋写本研究所(IOM)との国際共同研究のもと、ウイグル古文書資料に関する基礎研究を継続して実施した。具体的には、IOM内のセリンディア・コレクション(SIC)部門におかれたウイグル古文書研究グループと連絡を取り、先方にとって実現性が高いと思われるデータ交換条件などを提起するとともに、東洋文庫が将来的にファクシミリ付きの包括的なカタログのWEB公開を目指していることを伝達した。班員が古文書の内容に関する個別研究、比較の成果を個別論文の形で発表し、かつ出土古文書に関する諸情報を共有し、研究班の成果を若手研究者等と共有するため、東洋文庫以外の機関・研究者との交流を行った。

近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族グループは、2018年3月に濱本真実研究員をカザフスタン共和国アルマトウの国立文書館に派遣し、近代中央ユーラシアにおける通商と情報交換に関する第一次史料の収集を行う一方、カザフスタンの研究者との交流を拡大した。

敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究グループは、「濱田徳海敦煌文書関係コレクション」の整理と考察に重点を置いた。濱田徳海氏は戦前、中国に派遣された大蔵省の官僚で、その中国滞在中、また帰国後の日本で敦煌文書の収集に努め、180点余のコレクションを築いた。戦後、濱田氏の没後、コレクションの売却が話題となり、40点余が国立国会図書館に収まったが、その際に全容の把握などに東洋文庫関係者が関わったと推定され、幾つかの目録などの資料が残されていた。近年、立正大学の岩本篤志氏が濱田コ

レクションの考察を進めているものの、文庫に残された資料はその考察を大きく超える内容であり、そこで明らかになった全体像について、今後研究会や『東洋文庫書報』等で公表する予定であり、その上で、そのデータ（資料目録）をデータベース化して公開することを検討した。また、課題であった内陸アジア出土古文献研究会の定常化を実現し、全11回を開催した。報告には多くの若手・中堅研究者を起用し、国外の研究者・留学生も加わって、着実な議論の前進がなされた。

チベット研究班は、近年中国・インドなどで新たに刊行されたチベット語写本の影印版、チベット仏教美術の写真版、チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を収集した。また、2018年度以降の成果刊行に向けて、トゥカン『一切宗義』の翻訳研究、中央アジア出土チベット語文献研究、ウパロセル著『テンギュル目録』、チベットの文学作品の翻訳研究を継続した。

インド・東南アジア研究では、インド・東南アジアの2研究班を組織し、分担して資料調査・研究に取り組んだ。

インド研究班は、東洋文庫で従来収集していない史料のうち、国内で収集が困難な出版物、特にインドの主要な文書館、あるいはヨーロッパ（イギリスのBritish Library）の資料を調査し、それぞれの専門の分野で、研究データの整理を進めた。班員が、研究成果のWEB公開を視野に入れて、古代・中世の歴史に関して、インドにおけるそれぞれの分野の歴史の変遷と関連させて資料研究に取り組んだ。

東南アジア研究班は、研究会を開催し、近現代ならびに前近代の東南アジアの都市の成り立ちや構築したネットワーク、社会統合に果たす役割について検討した。植民地期の東南アジアの都市は、後の新生国家の基盤だけでなく、外来系住民の帰属意識やエスニシティ問題などを生み出す背景も醸成した。2017年度は、東洋文庫が豊かな関係資料を有するインドネシアのアラブ系住民の動向や、東南アジアのムスリムと中東のムスリムの交流について、重点的に検討した。その研究成果を、2018年度にTBRLシリーズより*The Development of Urban Society in Southeast Asia from Historical Perspectives*（仮題）と題して刊行する計画を固めた。また前近代の都市の役割を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏の東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。その目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を、2019年度に刊行することを確認した。

西アジア研究では、東洋文庫所蔵のヴェラム文書（皮紙に書かれたモロッ

コの契約文書、16～19世紀）の研究を継続し、2014年度に購入した皮紙11点のヴェラム文書のうち、フェスに関する文書7点について、月例の講読会を開催し、アラビア語校訂テキストを作成するとともに、各文書の内容を解読した。2019年度に研究成果として、校訂・研究を出版する予定である。

東アジア資料研究では、中国、台湾、香港、東南アジアなどに所蔵される文献資料、現地調査資料の探索、図書館、資料館との間に国際的情報交換、資料交換、人的交流を促進することの一環として、2006年から続く台湾中央研究院歴史語言研究所との間の資料交換協定を2018年3月30日付で3年間延伸する合意書を取り交わした。

(3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催

担当者： 研究部 山村義照、徐 小潔、太田啓子

資料調査・研究のために必要な情報を収集し、国際的な共同研究を推進し、かつその研究成果を対外的に発信することを目的に、年1回共通テーマのもとにアジア諸地域の地域比較・相互影響の解明に焦点を置いた国際シンポジウムを開催した。また、この国際シンポジウムの運営に若手研究員を携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材へと育成することに努めた。

2017年度は、モリソン文庫渡来100周年を記念する国際シンポジウム「碩学が語る東洋学の至宝のすべて」（2017年12月16日）を開催し、報告者・関係者含め61名が参加した。斯波義信文庫長の開会の挨拶のあと、平野健一郎普及展示部長の司会進行により、メルボルン大学のクレア・ロバーツ氏が豊富な写真資料と動画を用いて北京でのモリソンファミリーの生活について報告し、上海社会科学院の馬軍氏がモリソン文庫が日本に売り渡された際の中国側の反応について詳細に報告した。午後には濱下武志研究部長の司会進行により、田仲一成図書部長、岡本隆司研究員がそれぞれ編集を担当した記念刊行物『モリソン文庫貴重古籍目録』および『改訂増補モリソンパンフレットの世界』について報告したのち、中見立夫研究員、フランス国立極東学院のフランソワ・ラシヨール氏等を交えてパネルディスカッション（右図）を行い、モリソン文庫について様々な観点からその魅力と価値について討論が行われた。

また、各研究班の主導により、下記の国際シンポジウム・ワークショップ



を開催した。

〔研究実施概要〕

現代中国研究では、国際関係・文化グループが、2017年12月2～3日に華東師範大学（上海）との共催で第6回中国当代史に関する日中共同研究ワークショップを開催した（<http://www.tbcas.jp/ja/20171202WS.pdf>）。また政治グループが台湾の研究者3名を招聘して、2018年3月1日に国際ワークショップ「中国の外交と国際関係」を開催した。

(4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当者： 研究部 中村威也、小澤一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信した。特に国際シンポジウムはその速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル *Modern Asian Studies Review*（<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html>）で概要を発信した。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信

力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資すべく取り組んだ。

長期的・計画的にアジア研究の基礎的な成果を出版していくと同時に、最新の研究成果ばかりでなく、原典的な研究書を系統的に翻訳してオンラインジャーナルで公開することについても検討を進めた。

東洋文庫リポジトリ「ERNEST」は、2015年度より、国際情報学研究所(NII)が運営する学術機関リポジトリデータベース(IRDB)に参加することでCiNii Articles (<http://ci.nii.ac.jp/en>)で検索できるようになり、その発信力を高めているが、登録論文の一層の充実に取り組んだ。

編集業務に習熟した嘱託職員を採用して、研究成果の発信に際し、紙媒体・電子媒体の別なく、ハイレベルな校閲を行い、研究成果の質的向上をはかった。

[研究実施概要]

モリソンコレクション渡来100周年記念プロジェクトとして、*A Classified Catalogue of The Morrison Library in Toyo Bunko vol.1*、『改訂増補 モリソンパンフレットの世界』を刊行した。

現代中国研究では、2016年9月24日に東洋文庫で開催した総合アジア圏域研究第4回国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」の論文集を、『展望当代中国研究—档案資料的内与外』と題して中国語(簡体字)版で刊行した。また、モリソンパンフレットの研究の基礎の上に、公益財団法人東洋文庫監修・岡本隆司編『G・E・モリソンと近代東アジア—東洋学の形成と東洋文庫の蔵書』(勉誠出版、2017年9月)を一般向け書籍として出版した。

東アジア研究の近代中国研究班では、『近代中国研究彙報』第40号を刊行し、班員が収集した資料を紹介すると同時に、「台湾総督府文書」の調査から明らかにされた戦前・戦中期の日本人の中国認識の現状と問題点を整理した。

内陸アジア研究では、中央アジア研究班の近現代中央ユーラシアグループが、2015年末に東洋文庫で開催した国際学術会議の成果報告として、ONUMA Takahiro, David BROPHY and SHINMEN Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformation* (TBRL18)を刊行した。また、チベット研究班が、*Studies in Tibetan Buddhist Texts, Vol.2: The dBu ma tshig gsal gyi ti ka by Zhang Thang sag pa 'Byung gnas ye shes. Part II*を刊行した。

西アジア研究では、2015年12月5～6日に東洋文庫で開催した総合アジア圏域研究第3回国際シンポジウムをもとにした英文論集 *Comparative Study of*

the Waqf from the East: Dynamism of Norms and Practices in Religious and Familial Donations (TBRL19) を刊行した。

(5) 若手研究者の育成

担当者： 研究部 會谷佳光、相原佳之、山村義照

東洋文庫における資料調査・研究、国際交流、国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材の育成に取り組んだ。

英語・中国語等の外国語に堪能な若手研究者を嘱託職員として採用し、総合アジア圏域研究班の研究活動・国際シンポジウムの運営・国際交流事業に携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を促し、国際的に活躍できる人材の育成に努めた。

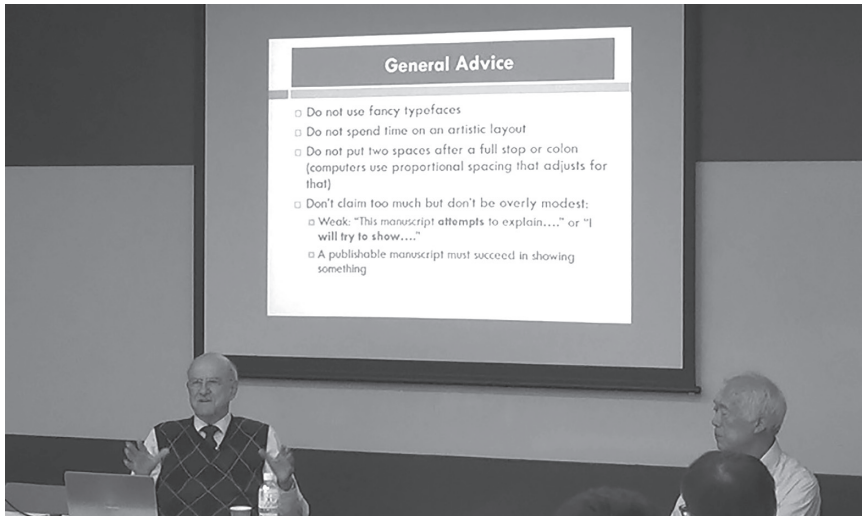
内外の若手研究者が国際的に活躍できるスキルを身につけることを支援するため、2017年10月12日、外国人講師ポール・クラトスカ氏（シンガポール国立大学出版会編集長）を講師に迎え、「英文による成果発信支援セミナー」を開催し、若手研究者10名の参加を得た（次頁図）。

東洋文庫には、かつて首都圏在住の大学院生・若手研究者の史料読解能力を養成するという重要な役割があった。専門研究領域が多様化し、各大学で個々の研究者が指導するには少なからず限界がある現在にあっては、東洋文庫におけるインターカレッジ的な育成の必要性がいよいよ増大している。そこで、各研究班が主催する研究会・セミナー・講演会等において、大学生・大学院生や若手研究者の積極的な参加を促した。

上記の諸活動により、アジア研究の国際的な発信拠点・交流拠点として、国際的に活躍できる若手研究者を養成し、それによって東洋文庫の研究活動を将来に渡って継承・発展させるべく努めた。それと同時に、積極的な普及・啓蒙活動によって研究成果を社会に還元すべく取り組んだ。

〔研究実施概要〕

現代中国研究では、2017年12月2～3日に華東師範大学（上海）との共催で開催した中国当代史研究ワークショップにおいて、若手研究者の報告者を募り、2名が日本側の推薦枠で研究成果の発表を行った。また、定例の研究会では書評会や研究報告に若手研究者の登壇を積極的に促し、分野の異なる若手研究者間の交流を進めた。さらに、海外の若手研究者との交流促進の一



環として、汪精衛研究で知られる李志毓氏（中国社会科学院近代史研究所・副研究員）を北京から招き、日本の若手研究者との交流の場を設けた。

東アジア研究では、前近代中国研究班の古代地域史研究グループによる月4回の定例研究会には、毎回10名前後の若手研究者が参加しており、彼らに基礎的な報告を委ね、さらに研究員の討議を加えることで、若手研究者の育成に貢献した。研究会には海外の研究者や留学生も加わり、国際的な学术交流に貢献した。

中国社会経済史用語のデータベース化グループが開催した月例研究会では、湖州地方における農業の状況や農民の経験を収録した『沈氏農書』・『補農書』の研究訳注が大川裕子氏によって数回に渡り報告されるなど、若手研究者も明代の《日用類書》を含む基層社会研究をテーマとした報告を行い、各世代の研究者を交えた活発な議論が交わされた。

近代中国研究班は、若手研究者の協力を得て、戦前戦中期の日本の研究機関による調査資料の収集と分析を進めた。2018年度からの次期事業計画に向けて若手研究者吉田建一郎氏を班員に迎えた他、東洋文庫で受け入れた日本学術振興会特別研究員PDをはじめとする若手研究者に対して指導を行った。

東北アジア研究班の清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析グループは、若手研究者を育成する一貫として、東洋文庫アカデミア「『論語』で学ぶ満洲語—文献資料類を読むための満洲語文語入門」を実施し、特に満洲語

文献資料を活用して研究するスキルを持つ若手研究者の育成に貢献した。

内陸アジア研究では、中央アジア研究班の近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族グループは、2018年3月に若手研究者の濱本真実研究員をカザフスタン共和国アルマトウの国立文書館に派遣して第一次史料の収集を行う一方、カザフスタンの現地研究者との交流を行った。

チベット研究班は、研究とその成果の刊行にあたり、若手研究者を協力者に加えて指導しながら共同研究を行い、Studies in Tibetan Religious and Historical Texts シリーズの第2巻を刊行した。

インド・東南アジア研究では、東南アジア研究班が2018年度出版予定の英文刊行物に、2015年度の研究会で報告を行った3名の若手研究者の論文を収録することとした。また研究班の活動の活性化のため、新たに若手研究者山口元樹氏を加え、2017年度の研究会で報告の機会を与えた。

西アジア研究では、京都外国語大学と連携して中央アジア古文書研究セミナー（第15回、2018年3月）、および東京外国語大アジア・アフリカ言語文化研究所と連携してオスマン文書セミナー（2018年1月）を実施し、若手研究者による文書研究の育成に寄与した。

C. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

(1) 研究成果公開促進費（データベース等）

①「東洋学電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波 義信]

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である（公財）東洋文庫が90年余にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、画像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約20年を経て、1,066,023件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器

物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約 6,000 件、1,000,000 コマを越える貴重書フィルム（35 mm）を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに 1970 年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関する写真や Video 資料をデータベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、訪問者数については、公開を開始した 2002 年度において、毎月 2,000 件であったものが、2016 年 3 月末の段階では、その 246 倍の 492,000 件に達した。これは 10 年前の 2009 年 3 月末における毎月 98,000 件にくらべても、5 倍の伸び率を示している。また、訪問者数に検索数を加えたアクセス数は、統計を取り始めた 2009 年 1 月において、489,000 件であったが、2016 年 3 月末では、その 6 倍の 3,000,000 件に達している。これらのアクセス数の増加は、主に画像資料の公開によるところが大きい。これを踏まえて、本年度も、文献資料のデジタル画像、現地での撮影写真、及び動画の拡大に重点を置いて、電子図書館のバランスと充実に務め、一層のアクセス数の増加に努めたい。

〔研究実施概要〕

a) 全頁画像データ

- ・モリソンパンフレット 886 点
- ・岩崎善本（彩色画像） 15 点
- ・中国木偶戲写真資料庫附録 物語資料庫（database） 78 頁

b) 動画データ

- ・中国祭祀演劇資料 14 種
- ・中国浙江省木偶戲資料 1 種

②「墓誌を用いた北魏史研究」

〔研究代表者：窪添 慶文〕

魏晉南北朝史研究は従来正史などの文献資料を用いて進められてきており、墓誌などの石刻資料を用いることはあっても、個別的に必要な箇所だけを利用するにとどまっていた。それに対して本書は、第 I 部において後漢以来の墓誌を全体的に検討して、北魏後期で墓誌が大量に作成されるようになるが、

次第に記載内容に共通の要素を持つようになっただけでなく、記載順序まで一致するようになることを明らかにした。これは今後の墓誌利用に貢献するものである。第Ⅱ部ではそれを承けて、北魏官僚制の研究に新しい切り口を示した。まず、正史と墓誌の記載を比較して正史と墓誌双方を併せることによって初めて個人の経歴を把握できること、次いで將軍号が官僚としての地位を表示する機能をもつことを示し、その結果官僚個人の経歴をクリアに再現しうようになった。そして墓誌と正史双方に記載のある全人物の経歴を復元して検討した結果、官僚は極めてシステムティックな形で昇進することを明らかにした。これに北魏後期では胡族も漢族も家格に基づき正従七品の枠内で起家するという新たに発見できた事実を合わせると、出現するのは門閥制となる。ただしその門閥制は、比較的狭い起家官の官品幅が示すように、能力によって容易に昇進が逆転しうする仕組みになっており、北魏が導入したとされる南朝貴族制とは大きく異なるものであり、全体として隋唐時代につながる方向性をもつ。以上のように重要な史料である墓誌の性格を明らかにしたこと、それにより北魏後期の官僚制の独特のシステムを解明したことは、今後の魏晉南北朝史研究に確たる基盤と方向性を示したことになり、重要な意義を有すると考える。第Ⅲ部は墓誌や石刻を用いた門閥制に関わる個別問題の検討を行っているが、それぞれに新見解を提示しえたと考える。

〔研究実施概要〕

窪添慶文著『墓誌を用いた北魏史研究（汲古叢書 145）』1冊 汲古書院刊

(2) 基盤研究B

① 「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

〔研究代表者：本庄比佐子〕（2015年度採用、5ヶ年間・第3年度）

戦前・戦中期の中国において、日本の様々な研究調査機関が実施した調査活動資料は、戦後に至ると個別分散的にしか分析されてこなかった。本研究では、戦前・戦中期の中国での調査活動報告等を整理するとともに、その調査内容の実態を究明し、同時期の中国側資料や、近年の中国での研究成果などを比較検討し、当該時期における中国全体の政治・経済・社会文化、ならびに日中関係の特質を、歴史的総合的に考察する。特に、研究対象地域としては、従来の研究では個別にしか取り上げられてこなかった華中・華南地域

を中心に、華北に関する研究成果も加えて、中国全土に関する日本の調査研究の全体像を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 国内における資料調査のほかに、台湾中央研究院、国史館等において関係資料の調査・収集を進めた。
- b) 鍾淑敏氏（台湾中央研究院台湾史研究所研究員）を招き、本研究の対象の一部である海南島に関する日本の調査について「台湾総督府の南進と海南島」の報告を得た。また、日本統治時代の台湾の日本語資料に関する全文公開データベースの紹介など、貴重な示唆を受けた。
- c) 前年度に引き続き、政治・経済的資料の分析に加え、都市案内や雑誌広告などの社会文化関係資料の検討を進めた。

②「イスラーム地域における物質文化史の比較研究～イベリア半島から中央アジアまで～」

[研究代表者：真道 洋子]（2016 年度採用、5ヶ年間・第2 年度）

本研究では、イスラーム史の中で生活文化の基層にある物質文化に着目し、文字資料を介した文献史学と歴史学、考古学、美術史、建築史、文化財科学などモノを介した諸学の研究の融合を推進し、新たな物質文化史理論の確立を目指す。

イスラーム地域はイベリア半島からアジアに及ぶ広大な地域、時代は7世紀から現代にまで及んでいる。そこで本課題研究では緻密な基礎研究を含む実証的な共同研究を国際的な連携のもとに進め、イスラームが成立する7世紀からモンゴル征西が起きる13世紀までを主な対象として、エジプト・シリア・イラクの東アラブ圏を軸に、イラン～中央アジアとマグリブ・アンダルスの東西両地域を対比させ、イスラーム的共通性と土地に根差した地域性の二元性を明らかとすることを目的とする。

[研究実施概要]

- a) 海外調査として、真道、新免、石田他が5月にウズベキスタン、ブハラ・オアシス発掘調査に参加し、出土ガラス研究に従事した。特に今回はガラスの化学組成とガラス製造に関わる研究のため、化学分析班の連携研究者新免歳靖氏と資料の検討及び採集とを実施し、また、研究協力者のガラス

作家石田彩氏と製作技術上の検討を行った。

- b) 真道と石田は、1月にロンドン大学で開催されたイスラーム考古学のシンポジウムに参加し、欧米研究者との意見交換を行い、さらに大英博物館他でカット装飾小瓶の実測図作成及び撮影を行った。ビクトリア & アルバート美術館でもイスラーム期のガラスや陶器の展示品をはじめとする関連資料の調査を実施した。研究協力者の小林は、カイロとパリで関連資料収集とイスラーム美術品の調査を行った。
- c) 国内調査では、早稲田大学考古学資料館に保管されているエジプト、フスタート遺跡出土遺物の中で、本年度は特にガラス器全般とイスラーム陶器について研究を進めた。
- d) 本年度はルーヴル美術館より Rocco Rante 博士を招聘し、東洋文庫、東京大学東洋文化研究所、青山学院大学、横浜ユーラシア文化館、龍谷ミュージアムで講演会および研究集会を行い、中央アジア等の研究者と意見交換を行った。また奈良で橿原考古学研究所附属博物館及び新沢千塚遺跡の見学、二条城をはじめとする京都史跡をめぐり、考古学者や文化財修復関係者と意見交換を行った。
- e) 以上のほか、研究代表者、連携研究者が各自、関連学会や研究会で発表を行っている。

③「寄進とワクフの国際共同比較研究：アジアから」

〔研究代表者：三浦 徹〕（2017年度採用、4ヶ年間・初年度）

寄付・寄進という行為は、人類史上広くみられる現象であり、富の再配分や金融や福祉の役割を果たし、寄進財をめぐる国家から独立性をもつ社会組織が形成された。本研究では、イスラーム地域に広がるワクフという寄進制度を、ヨーロッパや東アジアを含め、地域や時代をこえて比較することによって、ワクフの特徴や変化を明らかにするとともに、世界史（人類史）における寄付・寄進の意味を討究する。

①国際的な研究者ネットワークにもとづく、世界大の比較研究

②ワクフ・寄進を「所有、契約、市場、公益」の観点（分析軸）から比較し、そのメカニズムのモデルを構築する。

③日本と中国の寄進をワクフと対照し論点化することによって、日本から斬新な研究発信を行う。

〔研究実施概要〕

2018年2月までに、事前準備、研究分担者による課題研究、資料収集・分析、国内研究集会「日本・中国の寄進」を行い、2018年3月までに、国際研究集会、研究とりまとめを行う予定であった。しかしながら、2018年2月、インドで3月に開催予定の国際研究集会「インドにおけるワクフ」が、共催者デリー大学歴史学科の財政的な都合により開催中止となった。国際比較共同研究という本研究の遂行上、国際研究集会を開催のうえ成果をとりまとめる必要があり、4月23～24日に、マレーシアの国際イスラーム大学との共催により、テーマを「インド・東南アジアにおけるワクフ」に拡大して国際研究集会を開催することとしたため、研究に遅延が生じた。

上記の理由により本研究課題は2018年度に繰り越しとなったため、2017年度の研究実施概要は次年度の年報において掲載する。

(3) 基盤研究C

①「宋～明代日用類書の基礎的研究」

〔研究代表者：大澤 正昭〕(2015年度採用、4ヶ年間・第3年度)

宋代から明代までの日用類書を調査して整理し、そこに記載された、項目に関する一覧および記事についての語彙解・訳注の作成など、日用類書研究の環境を整備するための条件を整える。そのうえで歴史学研究への利用方法を検討する。具体的には次のような調査および研究を行う。

- a) 日用類書の国内所在目録、項目一覧および関連研究の文献目録を作成する。
- b) 研究対象とする日用類書について詳細な解説を試みる。そのために、①古今の辞書・辞典類及び索引・語彙解などの工具書類を調査し、収集する。②中国文学研究など関連分野の研究成果を調査・収集する。③当面の研究対象とすべき日用類書の記事に即して、語彙・用例の収集をおこない、文意の解釈について検討する。

〔研究実施概要〕

- a) 明代日用類書のうち『三台万用正宗』の訳注をおこない、律例門、商旅門、算法門について一応の完成をみた。そのうちの律例門は前年度までに前・後二部に分けて公開したが、後半部分について、2017年度末に改訂

版 Ver.1 を（公財）東洋文庫のホームページに公開した。

- b) 研究代表者は律例門を題材にして商人たちの告訴活動の現状について研究し、研究論文を公表した。そのなかで、告訴状の作成を必要としていた商人たちとは遠隔地貿易をおこなう客商であり、告訴状の内容分析から彼らが直面していた商業活動上の諸問題を解明することができた。同時に、従来不明確とされてきた日用類書の読者のうち、重要な部分がこうした客商によって占められていたことが解明された。
- c) 日用類書の目録編纂作業については、明刊本の国内所蔵機関目録がほぼ完成し、上記 a) と同じく目録稿としてホームページに公開した。
- d) 前年に引き続き研究文献リストの作成作業を進めてきたが、分量の多さという問題に直面しており、いまだ公開するまでには至っていない。
- e) 研究交流については、日用類書を題材として研究を進めている、他分野の研究者と交流をおこなうことができた。具体的には、明代文学の研究者として著名な小川陽一氏をお招きしてお話をうかがい、貴重なアドバイスをいただいた。このときのご指摘をもとに、2017 年度に公開した律例門訳注の大幅な見直しをおこなっているところである。その経過報告的な成果が上記 a)、の改訂版 Ver.1 である。

②「モロッコ皮紙契約文書（ヴェラム文書）の国際共同研究」

〔研究代表者：原山 隆広〕（2016 年度採用、3ヶ年間・第 2 年度）

（公財）東洋文庫が所蔵する皮紙契約文書（ヴェラム文書）について、モロッコなど関連地域での現地調査と連携研究をおこなう。とくに、①皮紙という材質的特徴と、関連契約を一枚にまとめた形態的特徴、所有権移転に伴い引き継がれていく機能的特徴に注目して類似文書の所蔵状況を把握・分析し、②社会経済史の視点から、各文書に登場する物件や人物について実地調査に基づき検討する。これらを通じて、東洋文庫ヴェラム文書の研究を深化させ、皮紙による文書作成を促した社会的背景を考察する。さらに皮紙契約文書の全容解明を進め、イスラーム法廷における契約手続きと権利保証の制度研究、ヨーロッパや日本・中国など諸地域・文化圏における契約文書の比較研究と繋げていくことを目指す。

〔研究実施概要〕

- a) 2 年度目にあたる 2017 年度は、前年度に引き続き現地調査を進めたこと

に加え、モロッコで国際シンポジウムを開催し、本研究課題に関するセッションにて発表報告を行なった。

- b) 同シンポジウム "al-Maghrib wa-al-Yaban : Ru'an Tarikhiyah Mutaqati'ah" (モロッコと日本：歴史横断的視座) は、"Ribat Al Koutoub" 誌主催／(公財) 東洋文庫および Center for Cross Cultural Learning 共催にて 2017 年 12 月 27 日にモロッコ国立図書館 (ラバト) で開催された。このなかで本研究課題に関するセッション "Sina'at al-Wathiqah : Taqdim Majmu' 'Uqd Raqqiyah Maghribiyah" (資料学の方法：モロッコの皮紙契約文書コレクションの研究) を企画し、原山隆広 (研究代表者)・三浦徹 (研究分担者)・佐藤健太郎 (同)・吉村武典 (連携研究者)・亀谷学 (同) の 5 名がこれまでの研究成果についてアラビア語で報告した。
- c) モロッコ側からは海外共同研究者の L. Bouchentouf 氏 (ムハンマド 5 世大学教授) や M. Aafif 氏 (同) をはじめとして、'A. al-Sabti 氏 (同・"Ribat Al Koutoub" 誌主筆)、'U. al-Mansuri 氏 (モロッコ歴史学協会会長)、H. 'Azzab 氏といった多数の現地研究者が参加し、皮紙契約文書について活発な議論が展開された。
- d) シンポジウムと併せてモロッコ国立図書館にて同館写本部門長の N. Bensaadoun 氏の協力を得て資料所蔵調査を実施した。さらに文書作成地の一つであるメクネスを訪れ、旧市街および郊外地区において対象物件等の実地調査を試みた。

③「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」

〔研究代表者：飯島 武次〕(2016 年度採用、3 ヶ年間・第 2 年度)

中国甘肅省東部から陝西省の渭河流域に分布する早期秦文化の遺跡・遺物および春秋戦国時代秦国の遺跡・遺物、統一秦時代の遺跡・遺物に関する考古学的調査と研究を行う。その中で第一の研究目的は、早期秦文化の遺跡・遺物の実態を踏査によって明らかにすることである。第二の研究目的は、中国側の発掘に参加する機会を持ち、秦文化遺跡の地下の内容を遺構として理解する。

該当地域における早期秦時代から秦滅亡にいたる秦文化の考古学的な分析を行い、秦漢帝国として成立する中華文明の基礎が秦文化の中に芽生えていく過程について都市遺跡を中心に分析する。甘肅省天水市清水県に遺跡の存在が想定される秦邑 (秦亭) 時代、陝西省宝鶏市内に遺跡の存在が想定され

る平陽時代、鳳翔県の雍城時代、咸陽市の咸陽時代に関して研究を進め、秦の都市遺跡の実態を明らかにしたい。あわせて都城に付随する秦陵も踏査し、都城と秦陵からなる秦の遺跡の変遷を研究する。

〔研究実施概要〕

- a) 中国甘肅省東部から陝西省の渭河兩岸に分布する早期秦文化の遺跡・遺物および春秋戦国時代秦国の遺跡・遺物、統一秦時代の遺跡・遺物の考古学的調査と研究を行うことが当該研究の研究目的であるが、その研究目的に従って、2017年度も北京大学考古文博学院と当該研究を課題とした学術交流を行い、陝西省内の西周時代及び併存期の秦人遺跡の発掘に参加し、また春秋戦国時代・統一秦時代の秦国大型墓の踏査を行った。
- b) 2017年9月4～7日の4日間、研究代表者飯島武次は北海道にある東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設に於て行われた北京大学考古文博学院の発掘実習に出向き徐天進教授と秦文化成立問題に関わる研究交流を行った。
- c) 2017年9月22～28日の7日間、研究代表者飯島武次、研究分担者角道亮介、研究協力者大日方一郎は、北京において北京大学考古文博学院と当該研究の打ち合わせを行った後、甘肅省礼県の春秋時代初頭の大堡子山遺跡の踏査と、張家川回族自治県の馬家原遺跡発掘見学を行った。あわせて天水市博物館で開催されていた「西戎文化的発現与研究学術研討会」に出席した。
- d) 2017年10月11～21日の11日間、研究代表者飯島武次、研究分担者角道亮介、研究協力者大方日一郎は、中国宝鶏市扶風県召陳村の西周時代・春秋時代遺跡の発掘調査に参加した。発掘終了後、咸陽市の秦武王陵の踏査と、西安市臨潼区秦東陵の踏査を行った。
- e) 以上の研究結果として、発掘調査では周人の支配下にある秦人の存在を遺構と遺物の上から推定することが可能となってきた。また踏査では、大堡子山遺跡3号・2号墓が、各説ある中で、3号墓が秦襄公墓、2号墓が襄公妃墓である可能性を確信した。また雍城14号陵園M45号墓が秦穆公の墓であるとの仮説を持つに至った。

④「国民国家建設期の東南アジアにおけるマレー・ムスリムのネットワーク」

〔研究代表者：坪井 祐司〕（2017年度採用、3ヶ年間・初年度）

1950、60年代の東南アジアのムスリムによる言論活動の分析を行う。シンガポールで発行されたマレー語雑誌『カラム』とそれを取りまく言論空間に焦点をあて、脱植民地化に際して彼らが新しい国家・社会をどのように構想したかを明らかにする。

マレー・インドネシア語の言論空間では、マラヤ（マレーシア）、インドネシアの各媒体による相互参照、頻繁な論争が行われた。この論争に着目して、各地の国家建設を担った民族主義者への対抗勢力としてのイスラム主義者の主張を明らかにする。それにより、東南アジアにおけるイスラム主義の系譜を解明し、マラヤとインドネシアという国境を越えたムスリムのネットワークの存在を示す。そして、言論活動とその担い手の越境性、混血性に着目することで、国民国家ごとに分かれた当該時期の先行研究とは異なる視角を提示し、現在の民族主義的な歴史観を相対化する。

[研究実施概要]

- a) 京都大学東南アジア地域研究研究所・CIRAS センターにて、共同研究「東南アジアの国民国家形成過程における民族・宗教の対立」（2017～2018年度）を組織し、研究代表者を務めた。共同研究の目的は、1950、60年代の島嶼部東南アジアの脱植民地化期におけるマレー・ムスリムの政治的境界を越えたネットワークのあり方を明らかにすることである。個人としては、1950～69年にシンガポールで発行されたマレー語月刊誌『カラム』の雑誌記事データベース（<http://majalahqalam.kyoto.jp/>）を利用し、当該時期の同誌のマラヤ政治に関する記事の分析を行った。シンガポールを中心とする在野のマレー・ムスリム知識人の国家構想を明らかにし、従来の国民国家中心の歴史叙述の相対化を目指した。研究成果としてディスカッション・ペーパーを編集し、2018年3月に刊行した。
- b) 他の学会や共同研究にて、『カラム』に関する論文を発表した。2017年9月15日にフィリピン・マニラで行われたマレー世界に関する国際学会にて発表し、論集に論考が掲載されたほか、東京外国語大学の共同研究の成果論集にも同誌に関する論考を寄稿した。
- c) 第二次大戦以前のジャウイ定期刊行物の分析を進め、『カラム』とあわせて、英領マラヤにおけるマレー語ジャーナリズムとそれを取り巻く言論空間についての総合的な分析を目指した。主要な分析対象は、1930年代のクアラルンプール発行の新聞『マジュリス』である。この成果は、東南ア

ジア学会中部例会のイスラム系出版物に関するワークショップにて報告した。

- d) シンガポール国立図書館との間で研究協力の体制を構築し、同図書館にて講演を行った。
- e) 教育・社会へのアウトリーチ活動として、放送大学の講義『東南アジアの歴史』の3回分（19世紀初頭までの前植民地期）を担当し、印刷教材の執筆を行った。

⑤「12世紀アイユーブ朝における言論と伝達—書簡資料の利用による」
[研究代表者：柳谷あゆみ]（2017年度採用、3ヶ年間・初年度）

本研究は12世紀のアイユーブ朝政権における、政権保有者と彼を支える知識人たちの言論と伝達に焦点をあてるものである。

具体的には、同時代の現存書簡をはじめとする（アラビア語で書かれた）資料に基づき（1）書式と構造を明らかにし、（2）政権の存在と政策の正当性にかかわる議論と主張、（3）政権の成員の知的交流について、その特色と変遷を検討する。

後代のマムルーク朝期における文民官僚たちの手本とされたこれらの書簡の形式・内容を把握することで、アイユーブ朝期の知識人たちが、互いに交流を深め、現状に実際的に対応していく中で構築した理論と慣行の祖型を示し、中世イスラム政治・社会史研究に有効な知見をもたらすことを目的とする。

[研究実施概要]

- a) アイユーブ朝期の書簡及び同時代資料と研究書を英国とレバノンにて収集した。英国ではケンブリッジ大学図書館にてカーディー・アルファーデイルの書簡集の撮影と内容の確認（書簡数・概要など）を行い、オックスフォード大学ボードリアン図書館ではイマード・アッディーン・アルイスファハーニーの『シリアの稲妻』の現存写本の撮影、内容確認を行った。
- b) レバノンではバイルートのドイツ東洋学研究所と市内書店にて資料と研究書の収集を行った。
- c) アイユーブ朝期の書簡資料では最も現存点数が多いカーディー・アルファーデイル起筆の書簡集の内容整理を開始した。外交書簡と個人書簡とに大別される彼の起筆書簡のうち、2017年度は個人書簡（特にイマード・アッ

ディーン・アルイスファハーニーとの往復書簡)の内容を精読し、文体と形式、書簡の用向きの特徴等を確認した。さらに、アイユーブ朝期との対照材料となるマムルーク朝期の書式マニュアルであるイブン・ファドル・アッラー・ウマリーの『高貴なる用語の解説』について、共同研究に継続して参加し、同資料の翻訳・研究を進めた。

- d) アイユーブ朝期の一次資料であるイブン・アルアスィール『光輝あるアターベク王朝の歴史』の二種類の校訂(ドゥ・スラーン校訂、トゥライマート校訂)について、現存写本と同時代の別資料との比定によって検証を行い、現存写本に後世の加筆が含まれることを確認し、加筆の出典についても見通しをつけた。この資料研究の成果を論文として発表した(柳谷あゆみ「イブン・アルアスィール著『アターベク王朝モスルの諸王の歴史』写本(仏国立図書館蔵 ARABE1898 旧番号 ARAB. 818)再考」『東洋学報』第99巻第1号、91～118頁、2017年6月)。

D. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究
青山 治世	清代—近現代の中国外交史
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天兒 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 渉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史

研究員名	研究課題
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上田 望	中国長編小説
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山 智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	オスマン帝国社会経済史
江南 和幸	金属材料学、里山学、文化財科学
遠藤 光暁	中国語音韻史・方言学
大江 孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大川 謙作	現代中国およびチベット民族の歴史と社会
大河原知樹	19-20 世紀シリアの社会史・政治史
大里 浩秋	清代末期の革命思想、日中関係史
大澤 顯浩	中国出版文化史、中国近世の地理書、中国地図学史
大澤 肇	近現代中国における学校教育史
大澤 正昭	中国近世社会史
太田 啓子	アラビア半島・紅海文化圏の歴史
太田 信宏	南インド近世史
太田 幸男	秦墓竹簡の研究
大谷 俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎 礼奈	日本近代美術史
尾形 洋一	近現代中国政治外交史

研究員名	研究課題
岡野 誠	中国法史、敦煌・吐魯番文献
岡本 隆司	近現代中国外交史
丘山 新	中国仏教資料研究
小川 裕充	中国絵画資料研究
小川 快之	中国宋代から清代の社会史、社会生活史、法制史
奥村 哲	中国近現代史
尾崎 文昭	20-21 世紀中国の文学
小田 壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名 康之	インド近世、ムガル政治史
小沼 孝博	中央ユーラシア史、17-19 世紀の新疆史
粕谷 元	トルコ現代史
糟谷 憲一	18-19 世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	広東農村社会史研究
加藤 恵美	在日韓国・朝鮮人社会の史的考察と国際比較－文化間関係の観点から
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究
金沢 陽	中国陶磁器研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
亀谷 学	初期イスラーム史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
神田 豊隆	東アジア国際関係史、日中台外交史
菅頭明日香	考古遺物の化学的分析
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアとめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ

研究員名

橋堂 晃一
金 鳳珍
楠木 賢道
久保 亨
窪添 慶文
久保田 淳
熊本 裕
栗山 保之
黒田 卓
氣賀澤保規
巖 善平
高野 太輔
興梠 一郎
小嶋 芳孝
小杉 泰
後藤 明
小浜 正子
小松 久男
小南 一郎
近藤 信彰
齋藤真麻理
早乙女雅博
櫻井 徹
佐々木 紳
佐藤健太郎
佐藤 慎一
佐藤 宏
佐藤 仁史
澤江 史子
塩沢 裕仁
設楽 國廣
蒨 勇造
篠木 由喜

研究課題

ウイグル仏教史の研究
東アジアの歴史・思想・国際関係
清代東北地域史、清代政治史
中国近現代史
魏晉南北朝時代史
日本古典文学、和歌文学史
イラン語史の研究
中世のインド洋海域の交易史
近現代イラン史
隋唐政治社会文化史
中国の三農問題
初期イスラーム史
現代中国論・中国現代史
渤海文化の考古学的研究
現代イスラーム政治の研究
イスラム社会と政治の研究
東アジアジェンダー史、中国近現代社会史
中央アジア近代史
中国藝能史研究
イラン史・ペルシア語文化圏史
中世日本文学の研究
東アジア考古学の研究
在留外国人のコミュニケーション誌の現況について
オスマン帝国近代史
マグリブ・アンダルス史
中国近代政治資料研究
農村経済社会の長期変動
近現代江南農村社会史研究
現代トルコ政治
中国古代歴史地理研究
オスマン帝国末期政治史
南アラビア古代史
博物館展示・教育論

研究員名

篠崎 陽子
斯波 義信
嶋尾 稔
島田 竜登
清水 宏祐
清水 信行
志茂 碩敏
徐 顕芬
徐 小潔
邵 迎建
城山 智子
真道 洋子
新免 康
末成 道男
須川 英徳
杉山 清彦
鈴木 恵美
鈴木 董
鈴木 均
鈴木 博之
鈴木 立子
砂山 幸雄
妹尾 達彦
關尾 史郎
関本 照夫
曾田 三郎
高久 健二
高田 幸男
高遠 拓児
高橋 公明
高橋 英海
高松 洋一
瀧下 彩子

研究課題

前近代中国文化史
中国社会経済史
ベトナム史
東南アジア経済史、海域アジア史
セルジューク朝時代イランの研究
古代の日本・大陸交流史
13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
東アジア国際関係、国際援助論、中国外交
近代日中関係史、コディコロジー
中国近現代文学
近現代中国の通貨・金融システム
イスラーム・ガラス文化史
中央アジア史
東アジア社会人類学
高麗・朝鮮時代の商業
大清帝国史
現代エジプト政治史
トルコ史
イランおよびアフガニスタンの地域研究
徽州民間祭祀の研究
元朝社会経済史
現代中国思想・文化・政治体制
中国古代・中世都市史
敦煌・トルファン文書研究
東南アジア伝統工芸業の研究
中国近代政治・社会史
東アジア、楽浪期を中心とした中国・朝鮮半島の研究
中国近代教育社会史、近代東アジア教育交流史
清代における刑罰制度の研究
東アジア海域史、東アジア国際関係史
西洋古典学
オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
近現代中国社会文化史

研究員名	研究課題
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	東アジアの経済発展
多田 狷介	漢魏晋史
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田仲 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国近代政治史 - 初期中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルズ	清代社会経済史、中国技術史
ペーター・ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、STS
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
東條 哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳永 洋介	中国近世史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
朽尾 武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
土肥 義和	西域出土漢文文書の研究
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
長沢 栄治	近代エジプト社会経済史
永田 雄三	オスマン帝国社会経済史
中谷 英明	インド仏教学

研究員名

長縄 宣博
中見 立夫
中村 元哉
新村 容子
西 英昭
西尾 寛治
延廣 眞治
萩田 博
馬場 英子
濱下 武志
濱島 敦俊
濱田 正美
濱本 真実

林 佳世子
林 俊雄
原 實
原山 隆広
平川 幸子
平勢 隆郎
平野健一郎
平野 聡
弘末 雅士
廣瀬 紳一
深沢 眞二
藤井 昇三
藤井 省三
藤田 忠
藤本 幸夫
古田 和子
古屋 昭弘
弁納 才一
寶劔 久俊

研究課題

ロシア・ムスリムの近現代史
清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中国近現代政治史・思想史
近代中国におけるアヘン問題
中国・台湾の近現代法制史
マレーシア・インドネシア近世史
江戸・明治の文芸
ウルドゥー語学・文学の研究
中国の説唱文学（語り物）
中国近現代史
中国近世社会経済史
中央アジアにおけるイスラーム研究
近代ユーラシア陸上貿易におけるタタール商人の活動とその文化的影響
オスマン朝期中東社会史
中央ユーラシア史・草原考古学の研究
インド古代文学の研究
アッバース朝末期政治史
東アジア国際関係史、中国・台湾外交史
中国考古資料研究
近代東アジア国際関係論
中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
インドネシア宗教社会史
漢字文化圏電子情報学の研究
連歌・俳諧の研究
近代中国政治外交史、日中関係史
中国近現代文学
中国古代政治・社会史
朝鮮本研究
近代東アジア経済史
中国語史
近現代中国農村経済史
現代中国の農村社会経済変動の研究

研究員名	研究課題
星 泉	チベット言語学
細谷 良夫	清朝政治史
堀井 聡江	イスラーム法史
堀内 賢志	東北アジアの国際関係、ロシア極東史、現代中ロ関係史
堀川 徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野 元紀	ベトナムのキリスト教
松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松村 史紀	国際関係論、東アジア国際政治史、中国政治外交史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラーム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
峰 毅	毛沢東時代の経済政策の再評価
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇 淳子	アジア史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初における対外経済関係
初山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史
森川 裕二	現代東アジアの経済ネットワーク
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史

研究員名	研究課題
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山口 元樹	インドネシア・イスラーム史
山村 義照	日本近現代史
山本 英史	17～19 世紀中国社会構造の研究
山本 真	中国・台湾近現代農村社会史
山本 毅雄	デジタル人文学
湯浅 剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近代史
吉田建一郎	近現代中国の農村経済
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水 清孝	古代から中世初期にかけてのインド思想史
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
吉村 武典	エジプト史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 268 人)

2. 研究資料出版

総合アジア圏域研究との連携の下に、超域アジア研究と歴史・文化研究に関する一次資料の解析と研究の成果は、継続してきた和文および欧文の紀要・

雑誌・叢書として刊行され、順次オンライン公開を進めた。さらに、総合アジア圏域研究に伴う成果について、アジア研究に関する欧文の電子ジャーナルとして編集発行した。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第 99 巻第 1～4 号
A5 判 4 冊（刊行済）
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.75
B5 判 1 冊（刊行済）
- (3) 『近代中国研究彙報』 40 号
A5 判 1 冊（刊行済）
- (4) 『東洋文庫書報』 第 49 号
A5 判 1 冊（刊行済）
- (5) *Modern Asian Studies Review*（新たなアジア研究に向けて） Vol.9
オンラインジャーナル（公開）
- (6) *Asian Research Trends New Series* No.12
A5 判 1 冊（刊行済）

B. 論叢等出版

- (1) 『展望当代中国研究－档案資料的内与外』（中国語）
A4 判 1 冊（刊行済）
- (2) *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformation* (TBRL18)
B5 判 1 冊（刊行済）
- (3) *Studies in Tibetan Buddhist Texts, Vol.2 : The dBu ma tshig gsal gyi ti ka by Zhang Thang sag pa 'Byung gnas ye shes. Part II*
B5 判 1 冊（刊行済）
- (4) *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norms and Practices in Religious and Familial Donations* (TBRL19)
B5 判 1 冊（刊行済）
- (5) *A Classified Catalogue of The Morrison Library in Toyo Bunko* vol.1
B5 判 1 冊（刊行済）
- (6) 『モリソンパンフレットの世界』（改訂増補）
B5 判 1 冊（刊行済）

C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。
<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

前期・後期、年6回実施した。

(前期)

第560回 2017年7月24日(月)

「トルコ大国民議会会議録から見るオスマン帝国の滅亡」

東洋文庫研究員

日本大学教授

粕谷 元 氏

第561回 2017年7月27日(木)

「18～21世紀ウルムチ(烏魯木齊)の歴史的変容

—中央ユーラシア史の中の新疆」

東洋文庫研究員

中央大学教授

新免 康 氏

第562回 2017年7月31日(月)

「『房山雲居寺石経』に刻印された唐代仏教社会」

東洋文庫研究員

明治大学東アジア石刻文化研究所長 氣賀澤保規 氏

(後期)

第 563 回 2017 年 11 月 27 日（月）

「三角測量（日・仏・越）から見るベトナム」

早稲田大学教授

坪井 善明 氏

第 564 回 2017 年 11 月 29 日（水）

「ヨーロッパから見た東洋のイメージルネサンスから 20 世紀まで」

日仏東洋学会代表幹事

元フランス国立極東学院東京支部長 彌永 信美 氏

第 565 回 2017 年 12 月 1 日（金）

「『好古家』と『畸人』の時代

—近世期の知的ネットワークと学問の形式に関する一考察—

フランス国立極東学院教授東京支部長

フランソワ・ラショー 氏

(2) 特別講演会

主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した。

2017 年 5 月 27 日（土）

「東洋文庫與中国学术界之關係（1924 - 1945 年）」〔中国語・要旨および討論のみ通訳あり〕

上海社会科学院歴史研究所

馬 軍 氏

2017 年 7 月 9 日（日）

国際ワークショップ「18 世紀オスマン帝国における社会変容」

Morning Session

Opening remarks: Jun Akiba (Toyo Bunko, Japan)

Shirine Hamadeh (Rice University, USA) : Invisible City: Subversive Alliances, Spaces of Opportunities, and the Bachelors of Istanbul (1700-1840)

Madoka Morita (The University of Tokyo, Japan): Neighborhoods Becoming Territorial: Marriage Contract, Religious Communities, and Local Leadership in Eighteenth-Century Istanbul

Afternoon Session

Sophia Laiou (Ionian University, Greece): Within and Outside the Ottoman System: The Orthodox Subjects of the Sultan and their Participation in the Ottoman Economy

Ali Yaycioglu (Stanford University, USA): Order with Disorder: Liability, Partnership and Volatility in Ottoman State-Society

Jun Akiba (Toyo Bunko, Japan): Ankara, Sarajevo, and İbradı: Rise of Kuzat Families in the Ottoman Provinces

Discussion

Closing remarks: Jun Akiba

2017 年 8 月 4 日 (金)

「誕生日の誕生」(中国語原題「中国人如何開始過生日的?」)〔中国語・通訳あり〕

清華大学歴史系教授

侯 旭東 氏

2017 年 9 月 2 日 (土)

“The habitat in the Bukhara oasis and its evolution since the Late Antiquity to the Medieval period”〔英語・通訳なし〕

Archaeologist, Louvre Museum, Department of Islamic Art

Rocco Rante 氏

2017 年 9 月 23 日 (土)

「汪精衛対日求和的政治環境與思想脉絡 (1933-1938)」〔中国語・通訳なし〕

中国社会科学院近代史研究所副研究員

李 志毓 氏

2017 年 10 月 12 日 (木)

「英文による成果発信支援セミナー

—英語による学術論文の発表：編集者が期待するもの

= Scholarly Publishing in English: What Editors Expect」〔英語・通訳なし〕

国立シンガポール大学出版会編集長

ポール・クラトスカ 氏

2017 年 10 月 30 日（月）

「アラブメディアが西洋メディアに及ぼした影響」〔日本語〕

フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）日本学部講師
Bassam TAYARA 氏

2017 年 12 月 22 日（木）

「対中国抗戦史学界“東方主戦場”論的評析」〔中国語・要旨および討論のみ通訳あり〕

上海社会科学院歴史研究所 馬 軍 氏

2018 年 3 月 10 日（土）

“Chingizid and non-Chingizid elements of legitimation of rulership in Iran and neighbouring area”〔英語・通訳なし〕

オーストリア科学アカデミーイラン学研究所前所長
Bert G. Fagner 氏

（3）東洋文庫談話会

専門分野の若手研究者による成果報告会を実施した。

2018 年 3 月 13 日（火）

「中国人協力者の戦後：これまでの研究成果と今後の展望」

日本学術振興会特別研究員（PD） 関 智英 氏

（4）公開講座

様々な分野の著名研究者を国内外より招いて実施した。

2017 年 5 月 13 日（土）

東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班 2017 年度全体研究集会

「近刊『日中漂流』について」

東洋文庫研究員
早稲田大学名誉教授 毛里 和子 氏

「近刊『『順天時報』社論・論説目録』について」

東洋文庫研究員

亜細亜大学准教授

青山 治世 氏

2017 年 6 月 11 日（日）

「震災後を生きる」

政治学者

姜 尚中 氏

2017 年 7 月 16 日（日）

「落語で知ろう！江戸の災害・防災」

落語家

三遊亭好吉 氏

2017 年 7 月 30 日（日）

「新史料で読む安政の大地震」

東京大学史料編纂所教授

佐藤 孝之 氏

2017 年 10 月 29 日（日）

「シェルパ斉藤のオーストラリア紀行—こうして僕は紀行作家になった」

紀行作家・バックパッカー

斉藤政喜〔シェルパ斉藤〕 氏

2017 年 12 月 16 日（土）

《モリソン文庫渡来 100 周年記念国際シンポジウム》

「碩学が語る東洋学の至宝のすべて」〔使用言語：日本語・英語・中国語〕

総合司会：平野健一郎 氏（東洋文庫普及展示部長・ミュージアム館長）

開会の挨拶：斯波 義信 氏（東洋文庫文庫長）

〈報告〉

“The Morrisons of Peking: Living History”

メルボルン大学准教授

Claire Roberts 氏

「莫理循文庫東渡前後の中国反応」

上海社会科学院歴史研究所研究員

馬 軍 氏

「莫理循文庫東渡前後の中国反応」

東洋文庫図書部長

田仲 一成 氏

「『白眉』の運命—『モリソンパンフレットの世界』を上梓して」

東洋文庫研究員
京都府立大学教授 岡本 隆司 氏
パネルディスカッション「モリソン文庫の魅力を語り尽くす」
司会進行：濱下 武志 氏（東洋文庫研究部長）
パネリスト：中見 立夫 氏（東洋文庫研究員）、
フランソワ・ラシヨー氏（フランス国立極東学院教授東京
支部長）、斯波 義信 氏、平野健一郎 氏、
岡本 隆司 氏、Claire Roberts 氏、馬 軍 氏

2018年1月26日（金）
「『鳴情均化録』はどのように読んだらよいか—大澤訳注稿をふまえて—」
東洋文庫研究員 大澤 正昭 氏

2018年2月4日（日）
「布哇（ハワイ）移民史—出稼ぎから定住へ」
東京大学教授 矢口 祐人 氏

2018年2月15日（木）
「古地図のメタデータ保存・活用のための事例報告：
龍谷大学所蔵『混一疆理歴代国都之図』」
龍谷大学教授 岡田 至弘 氏

2018年2月18日（日）
「水没する楽園—環礁国の真実」
東京大学教授 茅根 創 氏

2018年3月11日（日）
「色とりどりのハワイからの文学—移民とか戦争とか火山とか海とか」
早稲田大学教授 青山 南 氏

・以下のワークショップを開催した。

2017年5月14日（日）・6月24日（土）
「気象予報士あまたつのお天気ラボ—めざせ！気象予報士 大実験もある！」

気象予報士

天達 武史 氏

2017 年 7 月 23 日（日）

「製本体験シリーズ第 4 弾！じゃばらの本をつくろう」

東洋文庫研究員

篠木 由喜 氏

2017 年 11 月 26 日（日）

「Smell Voyage：本の香りのワークショップ

—きみだけの東方見聞嗅録を作ろう！」

愛知県立芸術大学非常勤講師

井上 尚子 氏

東京大学 E R A T O 特任助教

白須 未香 氏

・以下のミュージアムイベントを開催した。

2017 年 5 月 7 日（日）・6 月 4 日（日）

「遊んで学ぼう—地震の仕組み」

日本大学教授

伊豆原月絵 氏

日本大学理工学部スチューデントキュレーター

2017 年 6 月 18 日（日）

「熊本支援チャリティ映画『うつくしいひと』上映会」

2017 年 12 月 9 日（土）

「西本智実イルミナート教育プログラム、オペラワークショップ」

2018 年 2 月 11 日（日）

「“文の京コミュニティコンサート” フルート&ハープデュオコンサート」

(5) 各種研究会・講演会開催

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
研究会数	17	22	20	29	12	18	11	11	19	23	24	22	228
参加人数	149	199	157	339	99	154	94	108	239	215	209	163	2,125

B. データベース公開

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況については、Ⅱ 図書事業のグラフ（p.30）に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外来研究員の受入

フランソワ・ラショー（フランス国立極東学院 東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教（蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等）」

「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017 年 3 月 15 日～2019 年 3 月 14 日）

馬 軍（上海社会科学院歴史研究所研究員）

「東洋文庫と近代中日学術交流について」

（2016 年 10 月 1 日～2017 年 5 月 31 日）

〔受入担当：小浜 正子〕

呉 真（人民大学中文系副教授）

「中国古代戯曲演劇史」

（2017 年 7 月 3 日～2017 年 9 月 3 日）

（2018 年 1 月 12 日～2018 年 2 月 27 日）

〔受入担当：田仲 一成〕

張 新超（西南大学歴史文化学院民族学院）

「秦漢地方行政制度、秦漢法制史、出土文献」

（2017 年 9 月 1 日～2018 年 8 月 31 日）

〔受入担当：池田 雄一〕

(2) 2017 年度日本学術振興会特別研究員 P D・R P D の受入

関 智英（東京大学大学院 P D）

「戦時期中国人対日協力者（和平陣営）の戦後の活動と思想」

（2015 年度採用、16・17 年度・3 カ年間）

〔受入指導者：久保 亨〕

〈外国人研究者への便宜供与〉

Australia

Claire ROBERTS [Associate Professor, Art History and Australian Research Council Future Fellow, School of Culture and Communication, The University of Melbourne]

China

雷 晋豪 [香港教育大学文学及文化学系助理教授]

陳 偉強 [香港浸会大学文学院中国語言文学系教授]

史 梅 [南京大学博物館行政副館長兼任図書館副館長]（他 5 名）

程 彤 [上海外国語大学教授]

王 建朗 [中国社会科学院近代史研究所所長]（他 2 名）

侯 旭東 [清華大学教授]（他 3 名）

李 志毓 [中国社会科学院近代史研究所副研究員]

Deutschland

Esther Chen [Head of Library, Max-Plank-Institut für Wissenschaftsgeschichte]（他 1 名）

France

Bassam Tayara [フランス国立東洋言語文化学院日本学部]

Korea

韓 盛旭 [民族文化遺産研究院院長]（他 3 名）

Taiwan

許 雅惠 [国立台湾大学歴史学系副教授]（他 5 名）

- 李 志鴻 [中央研究院歴史語言研究所博士候補生]
冷 則剛 [中央研究院政治学研究所所長] (他 3 名)
呉 密察 [国史館館長] (他 2 名)

Mongolia

Sampildondov Chuluun [Director Professor Head, Institute of History and Archaeology, Mongolian Academy of Sciences] (他 1 名)

Saudi Arabia

Saud Al-Sarhan [Secretary-General, King Faisal Center for Research and Islamic Studies] (他 3 名)
Farida Al-Husseini [Museum Curator, King Faisal Center for Research and Islamic Studies]

Singapore

李 焯然 [シンガポール大学中国文学系教授]
Ang Seow Leng [シンガポール国立図書館・Senior Librarian]

USA

林 孝庭 [Research Fellow, Hoover Institution] (他 1 名)

D. 国際交流

フランス国立極東学院および中華民国中央研究院、ハーバード・エンチン研究所、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、SOAS、ベトナム社会科学学院漢喃研究所との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

なかでもハーバード大学アジア研究図書資料館であるハーバード・エンチン研究所とは、2010 年 10 月に交流協定を結び、資料交流・人材交流のみに止まらず、共同研究ならびにそれらを通した若手人材育成を共同で行う取り組みを開始しており、それらを一層推進した。

また、12 月 16 日（土）に《モリソン文庫渡来 100 周年記念国際シンポジウム》として「碩学が語る東洋学の至宝のすべて」を開催した。

4. 研究員等の研究業績

期間：2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

會谷 佳光

- ①「図録編「卅宋版」38. [大藏經]（或一切經）1454 種 5733 卷附字函釈音 532 卷」(宮内庁書陵部藏漢籍研究会編『図書寮漢籍叢考』, 157～159 頁, 汲古書院, 2018 年 2 月).
- ①「増上寺報恩蔵（西蓮社）と『大正新脩大藏經』の編纂：初歩的調査分析を通して」(『仏教史学研究』, 第 60 巻第 2 号, 70～89 頁, 仏教史学会, 2018 年 3 月).
- ③「増上寺報恩蔵（西蓮社）と『大正新脩大藏經』の編纂」(第 68 回仏教史学会学術大会, 於：龍谷大学大宮キャンパス, 2017 年 11 月 18 日).

相原 佳之

- ①「錦屏文書与刑科題本」(高其才・王奎主編『錦屏文書与法文化研究』, 284～294 頁, 中国政法大学出版社（北京市）, 2017 年 4 月).
- ①「嘉慶研究序説（1）：嘉慶四年正月・二月の上諭」(『環日本海研究年報』, 〈豊岡康史, 村上正和, 李有儒〉, 23 号, 51～82 頁, 新潟大学大学院現代社会文化研究科環日本海研究室, 2018 年 3 月).
- ③「清末民国初期中国の林野利用と植林奨励」(社会経済史学会第 86 回全国大会, 於：慶應義塾大学三田キャンパス, 2017 年 5 月 28 日).
- ③「汪精衛文書の新たな地平」(日本現代中国学会第 67 回全国学術大会, 於：愛知大学名古屋キャンパス, 2017 年 10 月 29 日).

青山 治世

- ①「『順天時報』社論・論説目録』を編集して」(『中国研究月報』, 第 71 巻 4 号, 47～48 頁, 中国研究所, 2017 年 4 月).
- ①「コメント：中国各層における「甲午戦争」認識の位相」(『東アジア近代史』, 第 21 号, 89～91 頁, 東アジア近代史学会, 2017 年 6 月).
- ③「近刊『順天時報』社論・論説目録』について」((公財) 東洋文庫超域アジア部門現代中国研究班 2017 年度全体研究集会（公開講座）, 於：(公財) 東洋文庫, 2017 年 5 月 13 日).

青山 瑠妙

- ① 「中国・一带一路構想の広がりその「死角」」(『外交』, Vol. 44, 73～81 頁, 2017 年 7 月).
- ① “Getting down to Business on Japan-China Relations”, *East Asia Forum*, 21 Aug. 2017, [http://www.eastasiaforum.org/2017/08/21/getting-down-to-business-on-japan-china-relations/?utm_source=newsletter&utm_medium=email&utm_campaign=newsletter2017-08-27].
- ① 『中国外交史』(〈益尾知佐子, 三船恵美, 趙宏偉〉, 264 頁, 東京大学出版会, 2017 年 9 月).
- ① Book review “Chugoku Seiji Gaiko no Tenkanten: Kaikaku Kaiho to” *Dokuritsujishu no Taigai Seisaku* [China Looks Back: Mao's Legacy in the Open-Door Era], *Journal of Contemporary East Asia Studies*, Vol. 6 issue2, pp. 240-243, Nov. 2017.
- ① 「日本の中国学研究と東亜中国学研究的課題」(『成均中国観察』, 21, 60～65 頁, 成均館大学出版部(ソウル), 2018 年 1 月).

秋葉 淳

- ③ 「ディーワーンと法廷：18 世紀オスマン帝国の地方における司法行政」(日本中東学会第 33 回年次大会, 於：九州大学箱崎キャンパス, 2017 年 5 月 14 日).
- ③ “Ankara, Sarajevo, and İbradı: Rise of Kuzat Families in the Ottoman Provinces”, *International Workshop: Transformation of Ottoman Society during the Eighteenth Century*, The Toyo Bunko, 9 July 2017.
- ③ “A Historian by Vocation, a Naib by Occupation: The Life and Career of Şemdanizade Süleyman Efendi (d. 1780)”, *The 14th International Congress of Ottoman Social and Economic History*, University of Sofia, Sofia, Bulgaria, 26 July 2017.
- ③ 「オスマン帝国史におけるエゴ・ドキュメント研究の展開と展望」(日本オリエント学会第 59 回大会, 於：東京大学本郷キャンパス, 2017 年 10 月 29 日).
- ③ “Ottoman Venality, or Tax Farming of Judicial Offices in the Ottoman Empire, c.1700-1839”, *Shari‘a Workshop*, Columbia University, New York, USA, 26 Jan. 2018.

浅田 進史

①「開戦 100 周年における第一次世界大戦研究を振り返る：植民地戦争・世界戦争・「帝国の戦争」の視点から」(『歴史と経済』, 第 236 号, 34～42 頁, 政治経済学・経済史学会, 2017 年 7 月).

①(翻訳)「イ・ドンキ(李東奇)著『国民的国家連合は不可能か：朝鮮半島からみた 1989・90 年のドイツ再統一』」(『思想』, No. 1119 (2017 年 7 月号), 116～135 頁, 岩波書店, 2017 年 7 月).

浅野 秀剛

①「荒ぶる波頭, 碎ける飛沫：北斎の波頭表現の変遷」(『聚美』, 25 号, 9～30 頁, 聚美社, 2017 年 10 月).

①「高年の北斎：自発・自決へのこだわり」(「北斎：富士を超えて」展図録, 302～307 頁, あべのハルカス美術館他, NHK 大阪放送局, NHK プラネット近畿, 朝日新聞社, 2017 年 10 月).

①“Hokusai in old age-his ideas,his way”, Timothy Clark ed., *HOKUSAI Beyond The Great Wave*, pp. 40-47, Thames & Hudson in collaboration with the British Museum, 2017.

②『浮世絵細見(講談社選書メチエ 657)』(320 頁, 講談社, 2017 年).

②『鈴木春信(ARTBOX)』(192 頁, 講談社, 2017 年).

天児 慧

①(呉日煥・安波訳, 何培忠校訳)「地域研究方法与現代中国研究」(『国外社会科学』, 2017 年第 4 期, 4～9 頁, 中国社会科学院信息情報研究院, 2017 年 7 月).

②『中国政治の社会態制』(304 頁, 岩波書店, 2018 年).

荒川 正晴

①「敦煌文書に見る妻の離婚, 娘の財産相続」(小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編『中国ジェンダー史研究入門』, 127～134 頁, 京都大学学術出版会, 2018 年 2 月).

③「ユーラシア東部における仏教伝来と冥界観の形成」(第 43 回早稲田大学東洋史懇話会大会, 於：早稲田大学, 2018 年 3 月 17 日).

飯島 明子

- ①「『タム文字写本文化圏』におけるクーバー・スィーウィチャイについての覚書」(『パリー学仏教文化学』, 31 号, 1～30 頁, パリー学仏教文化学会, 2017 年 12 月).
- ③「ランナーの寺院壁画」(日タイ修好 130 周年記念特別展「タイ：仏の国の輝き」国際シンポジウム, 於：東京国立博物館平成館大講堂, 2017 年 7 月 15 日).

飯島 武次

- ①「殷王朝時代の象の生息地と象牙」(『駒澤考古』, 第 42 号, 1～9 頁, 駒澤大学考古学研究室, 2017 年 9 月).
- ③「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」(日本中国考古学会関東部会, 於：駒澤大学, 2017 年 11 月 18 日).

飯島 渉

- ①「感染症と権力をめぐる歴史学」(歴史学研究会編『第 4 次現代歴史学の成果と課題 2 世界史像の再構成』, 165～179 頁, 績文堂出版, 2017 年 5 月).
- ②『衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会』(〈永島剛, 市川智生〉, 法政大学出版局, 2017 年).
- ③「日本におけるマラリア制圧過程の歴史的検証：感染症データのアーカイブ化の課題」(第 73 回日本寄生虫学会西日本支部大会, 於：大阪市立大学阿倍野キャンパス, 2017 年 10 月 15 日).
- ③「感染症アーカイブス」の構築に向けて：熱帯感染症をめぐる研究情報の整理と歴史化の試み」(日本熱帯医学会・グローバルヘルス合同大会, 於：東京大学, 2017 年 11 月 26 日).
- ③「感染症対策をめぐる日本と東南アジアの医療協力：日本住血吸虫症を中心として」(第 88 回日本衛生学会学術総会, 於：東京工科大学, 2018 年 3 月 23 日).

池田 美佐子

- ②カレン・アームストロング著・小林朋紀訳『イスラームの歴史：1400 年の軌跡 (中公新書 2453)』(318 頁, 中央公論新社, 2017 年, [監修および解題]).

池田 雄一

- ① (鄭威訳)「日本秦漢史学会前会長池田雄一：従出土簡牘出發挑戰“都市国家論”(訪談録)」(『文匯學人』, 第 318 期, 7～8 頁, 文匯出版社, 2017 年 11 月 17 日, [インタビュー記事]).
- ①「里耶秦簡の治獄について」(中国古代史研究会編『中国古代史研究 (第八): 創立七十周年記念論文集』, 15～37 頁, 研文出版, 2017 年 11 月).
- ② (鄭威訳)『中国古代的聚落与地方行政 (日本学者古代中国研究叢刊)』, 650 頁, 復旦大学出版社, 2017 年).

石川 寛

- ①「南インドの先史時代と国家の成立」(インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』, 246～247 頁, 丸善出版, 2018 年 1 月).
- ①「インド絵画史の一局面: ムガル宮廷画とラージプート絵画」(『東洋学研究』, 第 55 号, 198～199 頁, 東洋大学東洋学研究所, 2018 年 3 月).
- ③「インド絵画史の一局面: ムガル宮廷画とラージプート絵画」(東洋大学東洋学研究所研究発表例会, 於: 東洋大学, 2017 年 12 月 23 日).

石川 重雄

- ①「再論宋代的慮囚与疏決」(沈翔, 何忠礼主編『第三届中国南宋史国際學術研討会論文集』上, 311～318 頁, 浙江大学出版社, 2017 年 11 月).
- ①「江西省歴史調査報告: 宋代古墓を中心として (吉安・撫州篇)」(『社会文化論集: 島根大学法文学部紀要, 社会文化学科編』, <佐々木愛・大澤正昭・戸田裕司・小川快之>, 第 14 号, 21～46 頁, 島根大学法文学部, 2018 年 3 月, [四: 青原山浄居寺と墓塔・舍利塔]).
- ③「宋代的聖節与佛教教団」(徑山禪宗祖庭文化論壇, 於: 陸羽山莊集智庁 (杭州), 2017 年 11 月 9 日).

石塚 晴通

- ① “Some marks and commentaries in ancient Chinese manuscripts from Dunhuang from the Codicology’s point of view”, “14th International conference on the History of the Language Sciences” CONFERENCE HANDBOOK, pp. 102-103, Paris, 28 Aug. - 1 Sept. 2017.
- ①「書体と字体: 真草千字文を例として」(「東洋学へのコンピュータ利用」

第29回セミナー,〈李乃琦,劉冠偉,鄭門鎬〉,於:京都大学,2018年3月9日,[予稿集 pp. 17-41]).

③「Codicology より見た古辞書音義資料:高山寺本を中心として」(第116回訓点語学会,於:京都大学,2017年5月21日,[『訓点語と訓点資料』139輯,2017年9月]).

③「聖徳太子十七条憲法:日本人の多様性」(東京大学ホームカミングデー講演,於:東京大学,2017年10月21日).

石橋 崇雄

①「第4章 北京と日本人:北京で活動した日本人の足跡」(桜井澄夫・人見豊・森田憲司編著『北京を知るための52章(エリア・スタディーズ160)』,37~41頁,明石書店,2017年12月).

①「第16章 紫禁城:北京「故宮」に見る中国の古代思想」(桜井澄夫・人見豊・森田憲司編著『北京を知るための52章(エリア・スタディーズ160)』,105~109頁,明石書店,2017年12月).

①「第38章 餃子の話:北京の歴史と餃子」(桜井澄夫・人見豊・森田憲司編著『北京を知るための52章(エリア・スタディーズ160)』,249~253頁,明石書店,2017年12月).

①「Ⅱ部2章 世界史からみた水中遺跡:アジア歴史学研究の視点から」(佐藤信編『水中遺跡の歴史学』,115~127頁,山川出版社,2018年3月).

磯貝 健一

① “Waqf as a Device for Sustaining and Promoting Education: A Case from Pre-modern Central Asia”, Miura Toru (ed.), *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm Practices in Religious and Familial Donations* (Toyo Bunko Research Library 19), pp. 41-61, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

今西 祐一郎

②『源氏物語(一) 桐壺-末摘花(岩波文庫黄15-10)』(柳井滋他4名,612頁,岩波書店,2017年).

②『源氏物語(二) 紅葉賀-明石(岩波文庫黄15-11)』(柳井滋他4名,622頁,岩波書店,2017年).

②『源氏物語(三) 濡標-少女(岩波文庫黄15-12)』(柳井滋他4名,571

頁, 岩波書店, 2018 年).

上野 英二

①「源氏物語と長恨歌 其八」(『成城国文学論集』, 40, 45～60 頁, 成城大学大学院文学研究科, 2018 年 3 月).

宇山 智彦

①(翻訳)「カランドロフ・トヒル著「パミールのイスマール派: 認知されざる諸民族, 宗教共同体としての将来」」(『日本中央アジア学会報』, 第 13 号, 25～37 頁, 日本中央アジア学会, 2017 年 7 月, [編訳・序文・注釈]).

①「権威主義の進化, 民主主義の危機: 世界秩序を揺るがす政治的価値観の変容」(村上勇介・帯谷知可編『秩序の砂塵化を超えて: 環太平洋パラダイムの可能性 (環太平洋叢研究叢書)』, 35～56 頁, 京都大学学術出版会, 2017 年 7 月).

① “Sino-Russian Coordination in Central Asia and Implications for U.S. and Japanese Policies”, *Asia Policy*, Vol. 13, No. 1, pp. 26-31, National Bureau of Asian Research, Jan. 2018.

②『越境する革命と民族 (ロシア革命とソ連の世紀 5)』(338 頁, 岩波書店, 2017 年).

② *Comparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order*, 235p, Slavic-Eurasian Research Center, 2018.

江川 ひかり

① “Geçmişten Günümüze Düzce Bölgesindeki Yörükler ve Yörük Uygarlığının İzleri”, İsmail Yaşayanlar (ed.), *Düzce’de Tarih Kültür ve Sanat*, İlhan ŞAHİN, pp. 297-300, Bursa : Gaye Kitabevi, 2017.

③ “Japonya’ da Kurgan Döneminde Avrasya Göçebelerinin Etkisi ve Kurganların Özellikleri”, ULUSLARARASI ALTAY TOPLULUKLARI SEMPOZYUMU: MESKEN-AİLE VE AİLE DEĞERLERİ, İstanbul-Aydın Üniversitesi, Istanbul, Turkey, 25 July 2017.

江南 和幸

①「江戸時代の絵入り本を中心とした上方刊本と江戸刊本とに使われた用

紙の紙質分析」(『和紙文化研究』, 〈徐小潔, 岡田至弘〉, 第 25 号, 2～21 頁, 和紙文化研究会, 2017 年 12 月).

大河原 知樹

- ① “Searching for the origins of an Ottoman notable family: The Case of the ‘Azms”, *Archivum Ottomanicum*, 34, pp. 39-47, Wiesbaden : Otto Harrassowitz, 2017.
- ③ “Impact of Mecelle on post-Ottoman Middle Eastern Countries”, International Mecelle Symposium (Codification, Practice and Contemporary Effects), Bursa, Turkey, 25 Sept. 2017.
- ③ 「シャリーアと近代法のあいだ：オスマン民法典（メジェッレ）の事例」（東北大学イスラム圏研究会第 1 回「イスラーム学際研究の試み：中東イスラームの視点から」, 於：東北大学川内北キャンパスマルチメディア棟, 2017 年 10 月 14 日）.
- ③ “Brief History of the Majalla”, International Workshop, Making of Modern Islamic Law: The Majalla and Middle Eastern Movement of Codification, Tohoku University, 4 Nov. 2017.

大里 浩秋

- ① 「中研 70 年史, 所内報から見る中研の活動状況 (4)」(『中国研究月報』, 第 71 巻 9 号 (835 号), 35～43 頁, 中国研究所, 2017 年 9 月).
- ① 「石川伍一日記を読む (二)」(「石川伍一日記を読む (三)」, 「石川伍一日記を読む (四)」, 『人文研究』, No. 192, 193, 194, 47～68, 107～126, 75～99 頁, 神奈川大学人文学会, 2017 年 9 月, 2017 年 12 月, 2018 年 3 月).
- ① 「宗方小太郎日記：大正 9～10 年」(「宗方小太郎日記：大正 11～12 年」, 『人文学研究所報』, No. 58, 59, 81～122, 117～137 頁, 神奈川大学人文学研究所, 2017 年 9 月, 2018 年 3 月).

大澤 顯浩

- ① 「ギメ美術館図書館所蔵の漢籍資料について：ヴィシエール・コレクションとその史料的价值」(『言語・文化・社会』, 第 16 号, 75～114 頁, 学習院大学外国語教育研究センター, 2018 年 3 月).
- ③ 「中国の山水図式地図」(東洋文庫地図研究会, 於：(公財) 東洋文庫, 2017 年 7 月 19 日).

大澤 肇

- ①「留学と日中関係：中国人の留学とその構造変容に関する一試論」（高橋五郎編『新次元の日中関係』，432～452 頁，日本評論社，2017 年 9 月）。
- ①「近代中国における中等教育の社会史的分析：南京国民政府時期（1928～1937 年）を中心に」，東アジア史研究フォーラム国際学術会議，於：台湾大学，2017 年 11 月 3 日）。
- ①「ハンガリー事件と中国」（『アリーナ』，第 20 号，193～208 頁，中部大学，2017 年 11 月）。
- ③「近現代中国研究とデータベースの新たな地平：デジタルヒューマニティーズの彼方に」（日本現代中国学会第 67 回全国学術大会，於：愛知大学名古屋キャンパス，2017 年 10 月 29 日）。
- ③「現代中国的大学と政治権力」（第六届中国当代史研究工作坊，於：華東師範大学，2017 年 12 月 2 日）。

大澤 正昭

- ①「『補農書』（含『沈氏農書』）試釈：現地調査を踏まえて（一）」（『上智史学』，〈村上陽子，大川裕子，酒井駿多〉，第 62 号，119～153 頁，上智大学史学会，2017 年 11 月）。
- ①「商人たちの告訴状：明代日用類書の事例から」（『上智史学』，第 62 号，39～55 頁，上智大学史学会，2017 年 11 月）。
- ①「唐宋時代の生業とジェンダー」（小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編『中国ジェンダー史研究入門』，155～174 頁，京都大学学術出版会，2018 年 2 月）。
- ①『新刻天下四民便覧三台万用正宗』卷八（下層）律例門未収録条文訳注稿（東洋文庫研究部ホームページ，改訂版 Ver. 1，107 頁，（公財）東洋文庫，2018 年 3 月）。
- ①杉浦廣子編『明刊本日用類書国内所蔵機関目録稿』（東洋文庫研究部ホームページ，28 頁，（公財）東洋文庫，2018 年 3 月，〔監修，科学研究費補助金 基盤研究（C）「宋～明代日用類書の基礎的研究」，課題番号：15K02923，研究代表者：大澤正昭〕）。

太田 啓子

- ① “Coffee as a Global Beverage before 1700”, *Journal of International*

Economic Studies, No. 32, pp. 43-55, The Institute of Comparative Economic Studies, Hosei University, 2018.

太田 幸男

①学会動向「歴科協と私」(『歴史科学協議会創立 50 周年記念・歴科協 50 年の歩み』, 12～13 頁, 歴史科学協議会, 2017 年 6 月).

①「秦漢簡牘史料再考二題」(中国古代史研究会編『中国古代史研究(第 8): 創立七十周年記念論文集』, 78～95 頁, 研文出版, 2017 年 11 月).

大谷 俊太

①「『君臣僧俗と詠歌短冊手鑑』 解題と作者略伝」(『袖中抄 冊子本 無名抄 君臣僧俗詠歌 短冊手鑑(冷泉家時雨亭叢書 97)』, 421～538, 28～60 頁, 朝日新聞社, 2017 年 6 月).

①「宗養・紹巴と近衛前久: 近衛家の歌学と連歌」(『連歌俳諧研究』, 133, 15～25 頁, 俳文学会, 2017 年 9 月).

①「近衛信尋筆, 狂歌合『玉吟抄』本文と校異」(『国文論藻』, 第 17 号, 21～74 頁, 京都女子大学大学院文学研究科, 2018 年 3 月).

岡崎 礼奈

②『ナマズが暴れた!? 安政の大地震展: 大災害の過去・現在・未来』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年, [項目執筆: 「歴史資料で概観する日本の災害: 古代から近世まで」, 「江戸時代の災害対策」, 「安政の大地震/安政江戸地震」, 1, 3, 5, 8, 13, 15, 21～22]).

②『東方見聞録展 モリソン文庫の至宝』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年, [項目執筆: 「世界最大級の刊行コレクション『東方見聞録』」, 「モリソン文庫の至宝: 写本」, 「モリソン文庫の至宝: 旅行記・探検記・調査報告」, 「モリソン文庫の至宝: 図鑑」, 「モリソン文庫の至宝: 水彩画」, 4～10, 17, 19, 22, 24～26]).

②『ハワイと南の島々展』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2018 年, [執筆項目: 「伊豆諸島と小笠原諸島」, 15, 19]).

岡野 誠

①(趙晶訳)「有関唐代平闕式的一个考察(上): 以对敦煌写本《唐天宝職官表》の検討为中心」(中国政法大学法律古籍整理研究所編『中国古代法律

文献研究』, 第 11 輯, 190～215 頁, 社会科学文献出版社, 2017 年 12 月).

岡本 隆司

- ①「導論：モリソン、プロフィール、パンフレット」(〈岡本隆司〉『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補), 1～22 頁, 東洋文庫, 2017 年 9 月).
- ②『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補)(〈斯波義信〉, 451 頁, 東洋文庫, 2017 年).
- ②『G・E・モリソンと近代東アジア：東洋学の形成と東洋文庫の蔵書』(312 頁, 勉誠出版, 2017 年, [公益財団法人東洋文庫監修]).
- ③「中国「ギルド」論の系譜」(社会経済史学会第 86 回全国大会「パネル
- ④「近代中国の経済「制度」のモデル：労働・土地・組織」, 於：慶應義塾大学, 2017 年 5 月 28 日).
- ③「「大君主」の興亡：近代東アジア国際関係における韓国の独立と君主号」(韓国・日本史学会 2017 年度日本史学会国際学術大会《日本外交政策の歴史的展開と東アジア国際関係》, 於：高麗大学校 (ソウル), 2017 年 10 月 14 日).

小川 快之

- ①「宮廷女官とジェンダー」(小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編『中国ジェンダー史研究入門』, 219～224 頁, 京都大学学術出版会, 2018 年 2 月).
- ①「江西省歴史調査報告：宋代古墓を中心として (吉安・撫州篇)」(『社会文化論集：島根大学法文学部紀要. 社会文化学科編』(佐々木愛・大澤正昭・石川重雄・戸田裕司), 第 14 号, 21～46 頁, 島根大学法文学部, 2018 年 3 月, [担当 六：文天祥墓, 文丞相祠, 文天祥紀念館]).

尾崎 文昭

- ①「魯迅と周作人：近代中国の尊厳と恥辱」(「1980 年以後の文学世界：規範からの離脱」, 「季節感：花鳥風月と食べ物」, 中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』, 380～381, 392～393, 614～615 頁, 丸善出版, 2017 年 4 月).
- ①「文化大革命という亡霊 (ラウンドテーブル)」(『中国：社会と文化』, 〈村田雄二郎, 馬場公彦, 坂元ひろ子〉, 第 32 号, 46～85 頁, 中国社会文

化学会, 2017 年 7 月).

② 中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』(776 頁, 丸善出版, 2017 年, [共同執筆]).

小名 康之

① 「イギリス東インド会社に対するアウラングゼーブのファルマーン (1690)」(『青山史学: 清水信行教授退任記念号』, 第 36 号, 1~15 頁, 青山学院大学文学部史学研究室, 2018 年 3 月).

小沼 孝博

① “Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: The Case of Altishahr in the 17th and 18th Centuries”, Onuma Takahiro, David Brophy, and Shinmen Yasushi (eds.), *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations* (Toyo Bunko Research Library 18), pp. 33-57, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

② *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations* (Toyo Bunko Research Library 18), (David BROPHY, SHINMEN Yasushi), 275p, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

③ 「2016 年度天山北路踏査報告および豪州モリソン文書中の新疆関連史料について」(第 54 回日本アルタイ学会, 於: 長野県信濃町, 2017 年 7 月 16 日).

③ 「1871 年阿古柏伯克与清朝交渉始末初探」(「清朝政治発展変遷研究」国際学術研討会, 於: 復旦大学歴史地理研究中心, 2017 年 6 月 17 日).

③ “Dispatch of the Nusan Mission: The Negotiations between Qing and Ablay in 1757”, 18th Central Eurasian Studies Society Annual Conference, University of Washington, Seattle, USA, 5 Dec. 2017.

糟谷 憲一

① 「朝鮮の開国と開化」(〈李成市・宮嶋博史編〉, 『朝鮮史 2 近現代 (世界歴史大系)』, 3~76 頁, 山川出版社, 2017 年 10 月).

② 『朝鮮史 1 先史 - 朝鮮王朝 (世界歴史大系)』(〈李成市・宮嶋博史〉, 644 頁, 山川出版社, 2017 年).

② 『朝鮮史 2 近現代 (世界歴史大系)』(〈李成市・宮嶋博史〉, 480 頁, 山川出版社, 2017 年).

粕谷 元

①「トルコ大国民議会議録から見るオスマン帝国の滅亡」(『東洋学報』, 第99巻第2号, 59～61頁, (公財)東洋文庫, 2017年9月, [2017年度前期東洋学講座講演要旨]).

①“The Turkish Revolution between Secularism and Islam: The Three Laws Enacted by the Grand National Assembly of Turkey on March 3, 1924”(『上智アジア学』, 第35号, 161～180頁, 上智大学アジア文化研究所, 2017年12月).

①「ムスタファ・ケマル (アタテュルク): 国父の功績と負の遺産」(鈴木董編『悪の歴史 西洋編 [上]・中東編』, 390～401頁, 清水書院, 2017年12月).

③「トルコ大国民議会議録から見るオスマン帝国の滅亡」((公財)東洋文庫 2017年度前期東洋学講座, 於: (公財)東洋文庫, 2017年7月24日).

片桐 一男

①「ブロムホフに宛てた遊女の手紙」(『洋学史研究』, 第34号, 1～29頁, 洋学史研究会, 2017年4月).

①「通詞の蘭語訳付き遊女の手紙を読む」(『日本歴史』, 2018年3月号(第838号), 75～76頁, 吉川弘文館, 2018年3月).

②『シーボルト事件で罰せられた三通詞』(212頁, 勉誠出版, 2017年).

②『杉田玄白評論集』(232頁, 勉誠出版, 2017年).

②『紅毛沈船引き揚げの技術と心意気: 漁師・村井喜右衛門の壮挙 付 関係資料』(196頁, 勉誠出版, 2017年).

片山 剛

①「日中戦争期, 南京の人と建物をめぐる時空間: 南京土地登記文書の活用方をさぐる」(『近代東アジア土地調査事業研究 ニューズレター』, 第8号, 40～61頁, 大阪大学文学研究科片山剛研究室, 2018年3月).

③「1937年南京事件に先行する南京空襲(8月～12月)の時空間復元」(シンポジウム「歴史の智慧をどう活かすか? : 21世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究」, 於: 国際基督教大学アジア文化研究所, 2017年12月9日, [国際基督教大学アジア文化研究所, JFE21世紀財団共催]).

③「土地改革前夜, 土地利用に対する共同規制と村の領域の存在形態: 広

東省高要県金東围を中心に」(京都大学人文科学研究所「転換期中国における社会経済制度」研究班, 於: 京都大学人文科学研究所, 2018年1月26日).

加藤 恵美

③「朝鮮学校を対象とした大学生の演習手法とその展開」(日本国際文化学会2017年第16回全国大会, 於: 宮崎公立大学, 2017年7月9日).

金沢 陽

①「中世南西諸島海域交易品に見る商品と商圈の関係について」(『青山考古: 田村晃一先生追悼号』, 第33号, 49~60頁, 青山考古学会, 2017年5月).

①「十七世紀前期の東シナ海陶磁交易: 古染付の時代を中心に」(「古染付: このくにのひとのあこがれ かのくにのひとのねがい」展図録, 24~32頁, 石洞美術館, 2017年8月).

①「中国・明代の陶磁器国内流通: 景德鎮窯といくつかの有力地方窯」(『中近世陶磁器の考古学』, 第7巻, 21~56頁, 雄山閣, 2017年10月).

①「倉木崎海底遺跡と東アジア海域世界」(『宇検村誌 自然・通史編』, 276~316頁, 宇検村, 2017年11月).

①「粗製の初期貿易陶磁の商圈についての若干の考察: 内面に大きな星形無釉部分のある青緑釉鉢」(『青山考古: 清水信行先生退休記念号』, 第34号, 49~56頁, 青山考古学会, 2018年3月).

亀谷 学

③ “al-Arqām al-Fāsīyah wa-nuqūd al-mu‘āmalāt fī al-wathā’iq al-raqqīyah (皮紙文書で用いられるフェス数字と貨幣について)”, al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru’an tārikhīyah mutaqaṭī‘ah, al-Maktabah al-Waṭanīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.

川合 安

③「岡崎文夫の南朝貴族制理論」(中国魏晋南北朝史学会第十二届年会暨国際学術研討会, 於: 中国河北省邯鄲市嵩景楼酒店, 2017年8月17日).

③「南北朝の貴族制」(2017年度東北史学会大会, 於: 東北大学, 2017年9月30日).

川島 真

① “Toward China's “Hub and Spokes” in Southeast Asia? : Diplomacy during the Hu Jintao and First Xi Jinping Administrations”, *Asia - Pacific Review*, Volume 24, Issue 2, pp. 64-90, Dec. 2017.

① (劉星訳)「東亜国際政治史：圍繞中国的国際政治史与中国外交史」(日本国際政治学会編『日本国際政治学 第4巻 歴史中的国際政治』, 66～85頁, 北京大学出版社, 2017年).

①「中国における甲午戦争百二十年史研究」(『東アジア近代史』, 第21号, 56～70頁, ゆまに書房, 2017年).

③ “Chinese Perceptions of Asia and Japanese Pan-Asianism in the Early 20th Century”, EAJS2017, Faculty of Social Sciences and Humanities (FCSH) NOVA (Lisbon), 1 Sept. 2017.

③「1980年代初中日関係与東亜国際秩序の変動：以日本新公開外交檔案為基礎の初步探討」(「戦争与東亜国際秩序の変動」国際學術研討会, 於：中央研究院近代史研究所(台北), 2017年11月16日).

神田 豊隆

③「社会民主主義勢力の国際関係史：社会主義インターナショナル・アジア社会党会議・日本社会党」(グローバル・ガバナンス学会第10回研究大会, 於：名古屋大学, 2017年5月14日).

③ “The Left in Postwar Japan’s Diplomatic History: The Foreign Policy of the Japan Socialist Party and its Successors, 1945-2016” (於：立命館大学国際関係学部, 2017年6月23日, [ゲスト講義]).

③ “Networking Non-Communist Socialists in Asia: The Socialist International, Asian Socialist Conference and Japan Socialist Party in the 1950s” (首都師範大学歴史学院 “比較視野下の東南亜国際関係” 国際學術研討会, 於：厦門大学, 2017年10月29日).

③ “Part 2: Round-table discussion on US alliance politics and its strategic implications for the Asia-Pacific region as well as on security studies education at universities”, *Sharing Insights on International Affairs*, University of Niigata Prefecture, 14 Dec. 2017, [Discussant for Australia-Japan Foundation Distinguished Scholars Lecture and Round Table Series].

菅頭 明日香

- ①「中峠遺跡第7次調査出土黒曜石資料の産地分析」(『下総考古学』, 〈建石徹・大工原豊・二宮修治〉, 24, 196～198頁, 下総考古学研究会, 2017年5月)。
- ①「二次被熱した陶磁器片の磁化を用いた宇江城城跡の火災の検証」(『貿易陶磁研究』, 〈酒井英男〉, No. 37, 110～118頁, 日本貿易陶磁研究会, 2017年10月)。
- ①「考古地磁気年代推定法を用いた最近の研究動向」(『月刊考古学ジャーナル』, 〈酒井英男〉, No. 709, 24～26頁, ニューサイエンス社, 2018年2月)。

貴志 俊彦

- ②『古写真・絵葉書で旅する東アジア150年』(〈村松弘一〉, 176頁, 勉誠出版, 2018年)。
- ③「反戦, 厭戦, 終戦: 以1940年代, 国民政府統治下の日本俘虜問題为中心的的研究」(浙江大学「蒋介石与近代中国研究」第4回国際学術研討会, 於: 浙江大学(浙江省杭州市), 2017年6月10日)。
- ③“How can we distinguish propaganda from publicity in pre-war East Asia Photos?: Using Asahi Shimbun historical photo archive”, The shifting landscape from imperial to postwar East Asia: War Crimes, Trials, and the Geography of Power, Cambridge University, Cambridge, UK, 28 June 17.
- ③「日本における『戦後』概念の変遷と終焉」, The 4th German-Japanese Joint Lecture in Heidelberg, Universität Heidelberg, Heidelberg, Germany, 7 July 2017.

岸本 美緒

- ①「地域論・時代区分論の展開」(歴史学研究会編『第4次現代歴史学の成果と課題2 世界史像の再構成』, 2～17頁, 績文堂出版, 2017年5月)。
- ①「伝統中国の経済秩序をどのようにモデル化するか: 二〇世紀中葉の日本の学界における一つの試み」(中国社会科学院歴史研究所・東方学会・早稲田大学総合人文科学センター『第八回日中学者中国古代史論壇論文集 中国史学の方法論』, 229～249頁, 汲古書院, 2017年5月)。

- ①「清代中期の飢饉救済と贖地問題」(『歴史評論』, 2017年6月号(806頁), 68～80頁, 歴史科学協議会, 2017年6月).
- ①「グローバル・ヒストリー論とカリフォルニア学派」(『思想』, No. 1127(2018年3月号), 80～100頁, 岩波書店, 2018年2月).
- ①「『夷匪犯境録』の形成と流伝」(『お茶の水史学』, 第61号, 73～110頁, お茶の水女子大学読史会, 2018年3月).

橘堂 晃一

- ①「敦煌石窟ブラフミー文字題記銘文集成」(松井太・荒川慎太郎編『敦煌石窟多言語資料集成』, 164～198頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017年7月).
- ①「新発見のウイグル文『仏説善悪因果経』」, 『内陸アジア言語の研究』(32, 33～48頁, 中央ユーラシア学研究会, 2017年10月).
- ①“The Jin'gangjing zuan 金剛経纂 in Old Uighur with Parallels in Tangut and Chinese”, P. Zieme, *Written Monuments of the Orient (English version)*, 6, pp. 43-87, Moscow: Vostochnaya Literature Publisher, 2017.
- ③「ウイグルにおける「観心十法界図」の諸相」(仏教文化研究所研究談話会, 於: 龍谷大学, 2017年7月23日).
- ③“New Interpretation of the Hell Scenes from Bezeklik Cave 18 according to the Tangut Material”, *Collegium Turfanicum* 90, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, 22 Nov. 2017.

楠木 賢道

- ①「地域名称『満洲』の起源: 江戸時代知識人の空間認識の展開」(『江戸—明治 連続する歴史(別冊 環 23)』, 92～109頁, 藤原書店, 2018年1月).
- ①「奇兵隊が奪った小倉藩の蔵書『七経孟子考文補遺』」(『江戸—明治 連続する歴史(別冊 環 23)』, 114～115頁, 藤原書店, 2018年1月).
- ③「老臣明珠の満文奏折与康熙皇帝对清朝早期歴史的認識」(学術講座 111, 於: 復旦大学歴史地理研究中心, 2017年4月24日).
- ③「努爾哈赤継室袞代死考辨」(国際満学学術研討会, 於: 吉林師範大学長春キャンパス, 2017年6月28日, [『国際満学学術研討会論文集』(第二組), 176-181頁, 2017年6月28日]).
- ③「日本江戸時代后期知識分子对清朝、俄羅斯与藏伝仏佛教的認識: 以小説家大田南畝摘録的《平定准噶爾方略》与幕府図書館館長の近藤重藏所著

《喇嘛考》為例」(国際著名専門家学者專題講座, 於: 内蒙古大学蒙古学院蒙古歴史学系, 2017 年 10 月 12 日)。

久保 亨

- ①「人文・社会科学の危機と歴史学」(歴史学研究会編『第 4 次現代歴史学の成果と課題 3 歴史実践の現在』, 17～28 頁, 績文堂出版, 2017 年 5 月)。
- ①「日中戦争史研究の現在と日中関係」(『歴史評論』, 2017 年 7 月号 (807 号), 6～18 頁, 歴史科学協議会, 2017 年 7 月)。
- ①「『ヨーロッパと東アジアにおける第二次世界大戦の記憶』 会議参加記」(『近代中国研究彙報』, 第 40 号, 73～80 頁, (公財) 東洋文庫, 2018 年 3 月)。
- ①「近代中国における機械工業の発展: 1860-90 年代の上海造船業を中心に」(秋田茂編著『「大分岐」を越えて: アジアからみた 19 世紀論再考』, 81～108 頁, ミネルヴァ書房, 2018 年 3 月)。
- ②『日中終戦と戦後アジアへの展望 (日中戦争の国際共同研究 6)』(〈波多野澄雄, 中村元哉〉, 320 頁, 慶應義塾大学出版会, 2017 年)。

窪添 慶文

- ①「日本の長沙呉簡研究」(長沙簡牘博物館編『長沙簡帛研究国際学術研討会論文集』, 31～49 頁, 中西書局, 2017 年 10 月)。
- ②『墓誌を用いた北魏史研究 (汲古叢書 145)』(601 頁, 汲古書院, 2017 年)。
- ②『魏晉南北朝史のいま (アジア遊学 213)』(299 頁, 勉誠出版, 2017 年)。

久保田 淳

- ①「定家, そして子規・茂吉」(『ちくま』, 2017 年 9 月号 (No. 558), 14～15 頁, 筑摩書房, 2017 年 9 月)。
- ①「「こす」「こすのと」「こすのま」という歌ことば」(『中世の文学 附録』, 40, 4～8 頁, 三弥井書店, 2017 年 11 月)。
- ①「源俊頼『散木奇歌集』の食材・食品の歌」, 『日本語学』, 通巻 474 号 (第 36 巻 13 号), 2～11 頁, 明治書院, 2017 年 12 月)。
- ②『藤原定家全歌集 上 (ちくま学芸文庫)』, 『藤原定家全歌集 下 (ちくま学芸文庫)』(740 頁, 612 頁, 筑摩書房, 2017 年, [校訂・訳])。
- ②『玉吟集 (和歌文学大系 62)』(594 頁, 明治書院, 2018 年)。

熊本 裕

①書評「町田健訳『新訳・ソシュール 一般言語学講義』について」(東京大学言語学論集 電子版 (eTULIP), 第38巻2号, 33～61頁, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室, 2017年9月).

栗山 保之

①“Egyptian Fabrics and Their Distribution as Seen in the Red Sea Trade during the Thirteenth to Fifteenth Centuries”, *Chroniques du manuscrit au Yémen*, No. 23, pp. 89-102, CEFAS, Jan. 2017.

①「インド洋を往還したアラブの船乗りたち：20世紀初頭～中期におけるクウェイトのナーフーズについて」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』, 第49号, 161～180頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2018年3月).

黒田 卓

③「明治天皇に拝謁したイラン人訪日団(1回目)：メヘディー・ゴリー・ヘダーヤトの旅行記より」(東北大学国際文化研究科中東表象研究会, 於：東北大学川内北キャンパス, 2017年7月27日).

③「イラン系ムスリム知識人がみた近代世界：ヨーロッパと日本」(東北大学イスラム圏研究会第1回「イスラーム学際研究の試み：中東イスラームの視点から」, 於：東北大学川内北キャンパスマルチメディア棟, 2017年10月14日).

③「歴史の再構成と歴史認識の変遷：イランソヴィエト社会主義共和国(「ギーラーン共和国」)の事例から」(JSPS先導的人文社会科学研究推進事業(グローバル展開プログラム)「グローバル社会におけるデモクラシーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究」プロジェクト, 於：東北大学川内南キャンパス文系合同棟, 2017年11月5日).

③「イラン系ムスリム知識人がみた近代世界」(第37回イラン研究会, 於：同志社大学今出川キャンパス, 2018年3月25日).

氣賀澤 保規

①「則天武后 男の世界に敢然と切り込んだ女帝」, 「韋后「武韋の禍」のもう一人の立役者 女帝の道を踏み外した女」, 「楊貴妃 玄宗を骨抜きにし, 唐の屋台骨を揺るがした女」, (鶴間和幸編『『悪の歴史』東アジア編

(上)』, 268～278, 280～288, 302～313 頁, 清水書院, 2017 年 8 月)。

①「中国中古洛陽の歴史地位：兼論從墓誌資料看到的“洛陽学”之可能性」(『洛陽学國際學術研討會論文集』, 608～618 頁, 洛陽学國際學術研討會學術委員會, 2017 年 9 月)。

①「房山雲居寺の初期刻經事業与幽州当地新興階層：從《仏説造立形像福報經》の石經碑来分析(未定稿)」(『第三屆幽州学學術研討會學術論文集出土文献・伝世文本与理論思考』, 115～122 頁, 中央民族大学歷史文化学院, 2018 年 1 月)。

②『第 2 回日本洛陽学國際シンポジウム(研討會)隋唐洛陽と東アジア報告論文集』(229 頁, 明治大学東アジア石刻文物研究所, 2018 年)。

③「『房山雲居寺石經』に刻印された唐代仏教社会」((公財)東洋文庫 2017 年度前期東洋学講座, 於：(公財)東洋文庫, 2017 年 7 月 31 日, [『東洋学報』, 第 99 卷第 2 号, 63～65 頁, (公財)東洋文庫, 2017 年 9 月])。

小浜 正子

①「少子社会, あるいは「卵子の老化」の何が問題なのか?」(『学術の動向』, 2017 年 8 月号, 36～39 頁, 日本学術協力財団, 2017 年 8 月)。

①「『官商快覧』から『国民快覧』へ：中国近代のマニュアルブック」, 『言語・文化・社会』(第 16 号, 45～73 頁, 学習院大学外国語教育研究センター, 2018 年 3 月)。

②『中国ジェンダー史研究入門』(〈下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編〉, 486 頁, 京都大学学術出版会, 2018 年)。

小松 久男

① “Abdurreshid Ibrahim and Japanese Approaches to Central Asia”, Selçuk Esenbel ed., *Japan on the Silk Road: Encounters and Perspectives of Politics and Culture in Eurasia*, pp.145-154, Leiden and Boston: Brill, Oct. 2017.

① “Collective memory, Oral History and Central Eurasian Studies in Japan”, Timur Dadabaev and Hisao Komatsu eds., *Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, pp.1-19, New York: Palgrave Macmillan, 2017.

② *Kazakhstan, Kyrgyzstan, and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, Timur Dadabaev eds., 147p, New York: Palgrave Macmillan, 2017.

[編著].

②監訳『カーター・V・フィンドリー著『テュルクの歴史：古代から現代まで（世界歴史叢書）』』（〈佐々木紳訳〉，508頁，明石書店，2017年）.

小南 一郎

①「漢字の出現：大口尊の刻文を中心にして」（『泉屋博古館紀要』，33巻，15～43頁，2017年11月）.

①「殷から周へ，歴史の証跡」（白川静『文字講話 甲骨文・金文篇（平凡社ライブラリー864）』，201～209頁，平凡社，2018年2月，[解題]）.

①「目連救母の物語り：盂蘭盆儀礼との関わりを中心にして（1）」（1～68頁，2018年2月，[科学研究費補助金 研究報告]）.

③「林巳奈夫教授の学問と成果」，《殷周青銅器総覧》（第一巻中訳本）新書座談会，於：上海復旦大学逸夫科技楼多功能庁，2017年9月15日）.

近藤 信彰

①“State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ‘Abd al-‘Azim Shrine under the Qajars”，Toru Miura (ed.), *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm Practices in Religious and Familial Donations* (Toyo Bunko Research Library 19), pp. 3-25, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

③「サファヴィー朝期イラン法廷制度再考」（日本中東学会第33回年次大会，於：九州大学箱崎キャンパス，2017年5月14日）.

佐々木 紳

①「トルコ近現代史のなかの立憲主義：歴史の復元ポイントとして」，《歴史学研究》（No. 962（2017年10月号）），24～32頁，歴史学研究会，2017年10月）.

①「コーヒーか，紅茶か：トルコにおける嗜好飲料の変遷，歴史学からのアプローチ」（成蹊大学文学部学会編『嗜好品の謎，嗜好品の魅力：高校生からの歴史学・日本語学・社会学入門（成蹊大学人文叢書15）』，11～31頁，風間書房，2018年3月）.

②翻訳『カーター・V・フィンドリー著『テュルクの歴史：古代から現代まで（世界歴史叢書）』』（〈小松久男監訳〉，508頁，明石書店，2017年）.

佐藤 健太郎

- ①「イブン・ハルドゥーンの史書」(『歴史と地理(世界史の研究 252)』, 706, 26～33 頁, 山川出版社, 2017 年 8 月).
- ③「16～18 世紀モロッコにおける契約文書: 東洋文庫所蔵ヴェラム文書を通して」(2017 年度東洋史研究会大会, 於: 京都大学吉田キャンパス, 2017 年 11 月 3 日).
- ③“Wathā'iq raqqīyah: al-siyāghah wa-al-adwār (皮紙文書: 書式と役割)”, al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an tārīkhīyah mutaqā'ī'ah, al-Maktabah al-Waṭānīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.

塩沢 裕仁

- ①「城壁・烽火台遺構よりみた潼関城址」(国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」報告書, 9～33 頁, 2017 年 6 月, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「前近代中国における交通路と関津に関する環境史学的研究」研究成果報告書, 課題番号: 25284118, 研究代表者: 福原啓郎]).
- ①監訳「隋唐東都城址の調査と発掘」(『法政史論』, 45 号, 39～72 頁, 法政大学大学院史学会, 2018 年 3 月).

篠木 由喜

- ②『ナマズが暴れた!? 安政の大地震展: 大災害の過去・現在・未来』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年, [執筆項目: 年表, 2, 4, 6, 9, 10, 19, 20]).
- ②『東方見聞録展 モリソン文庫の至宝』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年, [執筆項目: 「モリソン文庫の至宝: 歴史を語る銅版画コレクション」, 1, 2, 3, 11, 12, 13, 21]).
- ②『ハワイと南の島々展』(33 頁, (公財) 東洋文庫, 2018 年, [執筆項目: 太平洋の島々(地図), 年表, 17]).

斯波 義信

- ②『モリソンパンフレットの世界(東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補)(〈岡本隆司〉, 451 頁, 東洋文庫, 2017 年).

島田 竜登

- ①「近世海域アジア世界とオランダ東インド会社の日本貿易」(荒野泰典編

『近世日本の国際関係と言説』, 187～205 頁, 溪水社, 2017 年 4 月).

①「ケンペルとシャム：一七世紀末のタイ・アユタヤ朝の一断面」(川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触：中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』, 777～798 頁, 吉田書店, 2017 年 7 月).

①「史上初のグローバル・カンパニーとしてのオランダ東インド会社」(羽田正編『グローバル・ヒストリーの可能性』, 287～303 頁, 山川出版社, 2017 年 10 月).

① “Invisible Links: Maritime Trade between Japan and South Asia in the early Modern Period”, A. J. H. Latham and Heita Kawakatsu eds., Asia and the History of the International Economy: Essays in Memory of Peter Mathias, pp. 57-71, London and New York: Routledge, Feb. 2018.

②『グローバル経済史』(〈水島司〉, 232 頁, 放送大学教育振興会, 2018 年).

清水 信行

①(翻訳)「鄭永振著「高句麗・渤海・靺鞨墓葬形制比較研究」」(『青山考古：田村晃一先生追悼号』, 第 33 号, 95～108 頁, 青山考古学会, 2017 年 5 月).

①「ロシア沿海地方渤海遺跡調査記」(『史友』, 第 50 号, 41～64 頁, 青山学院大学史学会, 2018 年 3 月).

邵 迎建

①書評「読林奕含『房思琪の初恋樂園』」(『上海書評』, 上海東方報業有限公司, 2017 年 7 月, [澎湃新聞, https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_1734235]).

①「洪深と『包得行』」(『知性と創造：日中学者の思考』, 第 9 号, 74～89 頁, 日中人文社会科学学会, 2018 年 2 月).

①「革命、戦争と女性：白薇『打出幽霊塔』と張愛玲『傾城之恋』」(『越境する中国文学』編集委員会編『越境する中国文学』, 271～282 頁, 東方書店, 2018 年 2 月).

③「菊与刀：中日第一部合拍電影及其他」(於：河南大学外国語学院(河南省開封市), 2017 年 10 月 12 日).

③「『花街』と『春江遺恨』(邦題『狼火は上海に揚がる』)：庶民／権力・宣伝」(国際シンポジウム「貫戦期における日中映画」, 於：早稲田大学,

2018 年 1 月 27 日).

城山 智子

- ①「黄浦浚深 (1907-1910)：モリソン・パンフレットの位置づけ」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補), 167～187 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 9 月).
- ①「近代中国幣制改革論の系譜：ジェレミア・W・ジェンクス (1856-1929) を中心として」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補), 305～325 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 9 月).

真道 洋子

- ①「ガラスから見たイスラーム社会」(『歴史と地理 世界史の研究 254』, 第 711 号, 50～53 頁, 山川出版社, 2018 年 2 月).
- ① “Study on the Early Islamic Glass Excavated in Paykend in the Bukhara Oasis, Uzbekistan”, *Annales: du 20e Congrès de l'Association Internationale pour l'Histoire du Verre*, 7-11 Sept. 2015, pp. 293-299, Congrès de l' Association Internationale pour l' Histoire Internationale, 2017.
- ③「薔薇水とガラス器」(平成 29 年度みんぱく共同研究「物質文化から見るアフロ・ユーラシア沙漠社会の移動戦略に関する比較研究」研究会, 於：国立民族学博物館, 2017 年 9 月 30 日).
- ③「イスラーム・ガラスにおけるブハラ・オアシス出土ガラスの位置づけ：2014～2017 年の調査から」(2017 年度第 3 回大東イラン研究会, 於：大東文化大学, 2017 年 10 月 22 日).
- ③「イスラーム考古学とガラス器」(第 11 回アジア考古学四学会合同講演会「アジアの煌めき ガラスが結ぶアジアの東西」, 於：明治大学駿河台キャンパス, 2018 年 1 月 20 日).

新免 康

- ①「シルクロードにおけるマザール参詣の諸相」(『日中社会学研究』, 第 25 号, 44～51 頁, 日中社会学会, 2017 年 10 月).
- ① “The Historical Development of Ürümchi: Focusing on Nanliang District from the Late-19th to Mid-20th Centuries”, Onuma Takahiro, David Brophy (eds.), *Xinjiang in the Context of Central Eurasian*

Transformations (Toyo Bunko Research Library 18), pp. 79-113, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

①「中国新疆における歴史書『東方五史』の「アルティ・シャフル」章について」(『中央大学アジア史研究』, 第42号, 100～77(1)～(24)頁, 白東史学会, 2018年3月).

② *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations* (Toyo Bunko Research Library 18), ONUMA Takahiro, David Brophy (eds.), 275p, The Toyo Bunko, Mar. 2018.

③「18～21世紀ウルムチ(烏魯木齊)の歴史的変容: 中央ユーラシア史の中の新疆」((公財)東洋文庫2017年度前期東洋学講座, 於:(公財)東洋文庫, 2017年7月27日, [『東洋学報』, 第99巻第2号, 61～63頁, (公財)東洋文庫, 2017年9月]).

徐 小潔

①「江戸時代の絵入り本を中心とした上方刊本と江戸刊本とに使われた用紙の紙質分析」(『和紙文化研究』, 〈江南和幸, 岡田至弘〉, 第25号, 2～21頁, 和紙文化研究会, 2017年12月).

③「江戸時代の絵入り本を中心とした上方刊本と江戸刊本とに使われた用紙の分析」(〈江南和幸, 岡田至弘, 中尾靖〉, 日本文化財科学会第34回大会, 於: 東北芸術工科大学, 2017年6月11日).

杉山 清彦

①「第14章 清から民国期到北京にいた満洲族: 八旗がつくった古都北京」(櫻井澄夫・人見豊・森田憲司編著『北京を知るための52章(エリア・スタディーズ160)』, 94～98頁, 明石書店, 2017年12月).

①「マンジュ(満洲)王朝としての大清帝国の国制とその歴史的位罫: 八旗制を中心に」(『専修大学法学研究所所報』, No. 55, 22～59頁, 専修大学法学研究所, 2017年12月).

③「明季清初時期的佟佳氏族衍及其活動」(国際満学学術研討会, 於: 吉林師範大学, 2017年6月28日).

③「在清代八旗中旗人的“満洲化”与“土人化”」(第2回「跨越想像的边界: 族群・礼法・社会」国際学術会議, 於: 台湾師範大学, 2017年12月1日).

鈴木 恵美

- ①「『アラブの春』後のエジプトにおける混乱と平和構築」(東大作編『人間の安全保障と平和構築』, 71～91 頁, 日本評論社, 2017 年 4 月).
- ①「現代エジプト：憲法における宗教条項」(柴田大輔・中町信孝編『イスラームは特殊か：西アジアの政治と宗教』, 335～360 頁, 勁草書房, 2018 年 2 月).

鈴木 均

- ①「アフガニスタンから山口へ：尾崎三雄氏の事例から」(桃木至朗監修『地域から考える世界史：日本と世界を結ぶ』, 34～49 頁, 勉誠出版, 2017 年 10 月).
- ①「中東政治経済レポート：イランの第 12 回大統領選挙をめぐって」(『中東レビュー』, 第 5 号, 19～22 頁, JETRO アジア経済研究所, 2018 年 3 月).
- ①「中東政治経済レポート総論：2017 年の中東地域」(『中東レビュー』, 第 5 号, 2～5 頁, ジェトロ・アジア経済研究所, 2018 年 3 月).
- ③「もっと知りたいイラン映画史」(イラン文化センター連続講演 (5 回), 於：イラン文化センター, 2017 年 9 月 24 日～12 月 3 日, [講座 1-5：9 月 24 日, 10 月 15, 29 日, 11 月 12 日, 12 月 3 日]).
- ③「イランの水不足・環境変化と都市問題」(JETRO アジ研専門講座「中東 4 カ国における社会経済開発の新たな試み：サウジアラビア, イラン, トルコ, イスラエルの事例から」, 於：JETRO 本部, 2017 年 11 月 20 日).

鈴木 立子

- ①「元代的父系継承観念」(南開大学歴史学院記念文集編輯組編『楊志玖教授百年誕辰紀念文集』, 277～286 頁, 天津古籍出版社, 2017 年 4 月).

砂山 幸雄

- ①書評「複数の“チャイニーズネス”を生み出す公民教育の変遷と現在：阿古智子・大澤肇・王雪萍編『変容する中華世界の教育とアイデンティティ』」(『東方』, 441 号, 38～42 頁, 東方書店, 2017 年 11 月).
- ③「近代中日教育交流の歴史及其対現在の啓示」(「近代中日関係・蒋介石」工作坊, 於：浙江大学蒋介石与近代中国研究中心, 2018 年 3 月 19 日).

妹尾 達彦

- ①「唐長安の都市核と進奏院：進奏院狀（P3547・S1156）をてがかりに」（土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』，157～186頁，図版475～479頁，東洋文庫，汲古書院，2017年4月）。
- ①「長安：世界システムの境界都市」（講演録）（『比較文明』，33，104～120頁，比較文明学会，2017年11月，[比較文明学会第34回大会 公開シンポジウム「文化の都の古今東西，そして未来」，於：同志社女子大学今出川キャンパス，2017年11月6日]）。
- ①「日本はユーラシア大陸とどう関わるか：歴史から見るアジア共同体」（榎本泰子編『アジアと生きる アジアで生きる：中央大学文学部プロジェクト科目講義録』，123～146頁，花伝社，2018年3月）。
- ③“Buddhism and Commerce in 9th Century Chang'an: A study of Ennin's Nittō Guhō Junrei Kōki 入唐求法巡礼行記”，Buddhism and Business, Market and Merit: Intersections between Buddhism and Economics Past and Present, Asian Centre Auditorium, University of British Columbia, 17 Jun. 2017.
- ③「中国都城史与全球史」（於：北京師範大学歴史学院，2017年11月17日，[講演]）。

關尾 史郎

- ①「簡帛と紙石の世紀」（『歴史学研究』，No. 964（2017年11月号），14～24頁，歴史学研究会，2017年11月）。
- ①（王蕾・馮培紅訳）「《新獲吐魯番出土文獻》所收（“五胡”時代公文書試探」，『絲路文明』，2，61～74頁，上海古籍出版社，2017年12月）。
- ①「高台县古墓群発掘調査簡史：主要出土文物とその研究の紹介をかねて」，『資料学研究』（Vol. 15，61～107頁，新潟大学大学院現代社会文化研究科，2018年3月）。
- ②『簡牘が描く中国古代の政治と社会』（〈藤田勝久〉，290頁，汲古書院，2017年）。
- ③「吐魯番文書の史料学初探」（2017年中国社会科学論壇（史学）：第六届中国古文書学国際研討会，於：中国社会科学院当代中国研究所，2017年8月10，11日，[ペーパー提出]）。

高久 健二

- ①「埼玉古墳群出土金属製品・馬具の特徴と系譜」(埼玉県立さきたま史跡の博物館編『史跡埼玉古墳群 総括報告書Ⅰ』, 223～246 頁, 埼玉県教育委員会, 2018 年 1 月)。
- ①「古代東アジアにおける埼玉古墳群の位置」(埼玉県立さきたま史跡の博物館編『史跡埼玉古墳群 総括報告書Ⅰ』, 247～266 頁, 埼玉県教育委員会, 2018 年 1 月)。
- ①「新羅積石木槨墓の埋葬プロセス：皇南大塚を中心に」(国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告』, 第 211 集, 167～209 頁, 国立歴史民俗博物館, 2018 年 3 月)。
- ③「東アジアの鉄器文化：朝鮮半島を中心に」(公開セミナー 2017『弥生のムラに鉄が来た!!：河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか』, 於：えびな市民活動センター・ビナレッジ, 2017 年 11 月 23 日, [『弥生のムラに鉄が来た!!：河原口坊中遺跡の鉄斧はどこから来たのか』, 29～42 頁, かながわ考古学財団, 2017 年 11 月])。
- ③「日韓の楽浪系文物：平壤市楽浪区域一帯の古墳の上限年代を中心に」(第 29 回東アジア古代史・考古学研究会交流会, 於：福岡大学, 2018 年 1 月 6 日, [『東アジア古代史・考古学研究会交流会：研究発表会資料集』, 第 29 回, 29～40 頁, 東アジア古代史・考古学研究会交流会・「新・日韓交渉の考古学：弥生時代」研究会, 2018 年 1 月])。

高田 幸男

- ①「明治大学接收東亜留学生的開端与培養特点」(『遼寧師範大学学报(社会科学版)』, 2017 年第 6 期, 25～30 頁, 遼寧師範大学, 2017 年 11 月)。
- ①「王清穆『農隱廬日記』(7)」(『近代中国研究彙報』, 王清穆研究会(代表高田幸男)編注, 第 40 号, 93～142 頁, (公財)東洋文庫, 2018 年 3 月)。
- ②「『江南の中の近現代中国』“從江南看近現代中国”：“江南百年”プロジェクト総括シンポジウムの記録」(105 頁, “江南百年”プロジェクト(代表：高田幸男), 2018 年, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「20 世紀中国地域社会の指導層・中堅層：江南地方の人材基盤研究」, 課題番号：26284110, 研究代表者：高田幸男])。
- ③「明治大学在近代中国留日学生中之位置」(第二届「留学生与中外文化」国際學術研討会, 於：南開大学歴史学院(天津), 2017 年 8 月 27 日)。
- ③「江南科研の趣旨説明と 12 年の歩み」(「大学生・学人の体験からみた中

国現代史」, 国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」, 於: 明治大学駿河台キャンパス, 2017 年 11 月 17 日, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「20 世紀中国地域社会の指導層・中堅層: 江南地方の人材基盤研究」, 課題番号: 26284110, 研究代表者: 高田幸男]).

高橋 英海

① “On the Medical Works of Barhebraeus: With a Description of the Abridgement of Hunain’s Medical Questions”, *Aramaic Studies*, (Naohide Yaguchi), 15, pp. 252-276, Brill, Jan. 2017.

③ 「中国とその周辺におけるシリア語とシリア・キリスト教: 最近の発見を中心に」(第 78 回羽田記念館定例講演会, 於: 京都大学大学院文学研究科附属ユーラシア文化研究センター (羽田記念館), 2017 年 7 月 1 日).

③ “The Attitude of Barhebraeus towards Islam and Islamic Scholars”, International Medieval Congress 2017, University of Leeds, 5 July 2017.

③ “Syriac Christianity East of the Pamirs: On Some New Finds and Their Significance for the Understanding of Eurasian Christianity”, International Conference “Georgia-Byzantium-Christian East”, Korneli Kekelidze Georgian National Center of Manuscripts, 25 Sep. 2017.

③ “Syriac Christianity in Tang and Yuan China: Remarks on Some Recent Discoveries”, (北京大学国際漢学家研修基地国際漢学系列講座第九十二講, 於: 北京大学国際漢学家研修基地, 2017 年 10 月 13 日).

高松 洋一

① 「一八世紀オスマン帝国における紅海交易の一断面: 問答集『ジッダ港の統治の秩序のために準備された諸留意点』の紹介」(川分圭子・玉木俊明編著『商業と異文化の接触: 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』, 714～749 頁, 吉田書店, 2017 年 7 月).

瀧下 彩子

① 「抗日漫画に見る「加害」の表象」(『中帰連: 戦争の真実を語り継ぐ』, 62 号, 34～44 頁, 「中帰連」発行所, 2017 年 5 月, [特集 漫画が伝える戦争の「加害」]).

① 「「同志」と「腐女」と「13L」: 『盗墓筆記』の成功に見る中国 BL 創作事情」(染谷智幸・畑中千晶編『男色を描く: 西鶴の BL コミカライズとア

ジアの〈性〉』, 197～211 頁, 勉誠出版, 2017 年 9 月)。

①「人ならざるモノへの視線：華君武の人民諷刺漫画」(北海道大学連環画研究会編『連環画研究』, 7 号, 33～47 頁, 北海道大学連環画研究会, 2018 年 3 月)。

田島 俊雄

①「日本占領下の華北セメント産業」(『日本植民地研究』, 第 29 号, 1～21 頁, 日本植民地研究会, 2017 年 6 月)。

①「『属地的経済システム論』からみた計画経済期の中国」(代田智明監修, 谷垣真理子・伊藤徳也・岩月純一編『戦後日本の中国研究と中国認識』, 169～186 頁, 風響社, 2018 年 3 月)。

②『WTO 体制下の中国農業・農村問題』(〈池上彰英〉, 400 頁, 東京大学出版会, 2017 年)。

③「抗戦時期的華北水泥産業兼紹介呉承明老師 1980 年在東京大学社会科学研究所」(経済史理論と研究：呉承明, 汪敬虞先生百年誕辰国際学術研討会, 北京国誼賓館, 2017 年 8 月 5 日)。

多田 狷介

①「『群書治要』所引の二篇の『中論』佚文について」(中国古代史研究会編『中国古代史研究(第 8)：創立七十周年記念論文集』, 222～241 頁, 研文出版, 2017 年 11 月)。

立川 武蔵

①「現代の仏教的世界観：ブッディスト・セオロジーの試み(5) 完」(『春秋』, 2017 年 11 月号 (No. 593), 5～8 頁, 春秋社, 2017 年 10 月)。

①「チベットのカーラチャクラマンダラ」(森雅秀編『アジア仏教美術論集 中央アジアⅡ チベット』, 293～316 頁, 中央公論美術出版, 2018 年 1 月)。

①「空とは, 無とは」(『大法論』, 85 巻 4 号, 86～89 頁, 大法輪閣, 2018 年 3 月)。

①“Mandala-World and the Sacred”, Toshihiro Wada ed., *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism*, Vol. 34, pp. 101-114, Department of Indian Philosophy Graduate School of Humanities, Nagoya University, 2018.

②『死後の世界：東アジア宗教の回廊をゆく』(245 頁, おねうま舎, 2017

年).

田中 一成

- ①「インタビュー 田中先生を囲んで」(西澤治彦・河合洋尚編『フィールドワーク：中国という現場，人類学という実践』，249～299 頁，風響社，2017 年 6 月，[瀬川昌久，西澤治彦との対談記録]).
- ①「現地調査で学んだこと：エスニック・グループという視点」(西澤治彦・河合洋尚編『フィールドワーク：中国という現場，人類学という実践』，227～248 頁，風響社，2017 年 6 月).
- ①「潮州劇について」(志賀市子編『潮州人：華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学』，389～403 頁，風響社，2018 年 2 月).
- ①「Morrison 文庫貴重洋書目録解題」(*Modern Asian Studies Review*, Vol. 9, (公財) 東洋文庫，2018 年 3 月，[講演記録]).

田中 仁

- ①「コメント「特集：グレーゾーンとしての戦時上海」」(『現代中国研究』，第 39 号，52～54 頁，中国現代史研究会，2017 年 7 月).
- ①「討論 1 リスクの可視化，課題の共有」(『現代中国』，第 91 号，52～53 頁，日本現代中国学会，2017 年 9 月，[特集：リスクで測る中国の諸相]).
- ①書評「加藤弘之著『中国経済学入門：“曖昧な制度”はいかに機能しているか』」(『現代中国研究』，第 40 号，104～110 頁，中国現代史研究会，2018 年 2 月).
- ②『21 世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』(220 頁，法律文化社，2017 年).

田中 比呂志

- ①「華北農村訪問調査報告 (7) 付雲南農村調査：2015 年 9 月河北省 S 県 G 鎮 W 村，山西省 L 県 N 鎮 G 村，2016 年 9 月雲南省 C 自治州 Z 鎮 D 村，河北省 R 県 W 鎮 W 村，山西省 L 県 J 鎮 Z 村，L 県 N 鎮 G 村」(『東京学芸大学紀要 (人文社会科学Ⅱ)』，〈菅野智博，廬琚，席金花，鄭翠梅，古泉達矢〉，第 69 集，61～72 頁，東京学芸大学，2018 年 1 月).
- ③「村落档案史料からみた集団化時期中国山西省の宗教政策」(第 2 回金沢大学環日本海研究センター連携部門国際テーマシンポジウム「近現代における環日本海域の農村社会環境の特質」，於：金沢大学，2018 年 2 月 23

日).

塚原 東吾

- ①「バイオ・キャピタルの系譜学 (ver. 2) : 再生医療のポリティックスと軍事研究の新局面」(『現代思想』, Vol. 45-9 (2017 年 6 月臨時増刊号), 118 ~ 133 頁, 青土社, 2017 年 6 月, [総特集 iPS 細胞の未来: 山中伸弥の仕事]).
- ① “New Currents in Science: The Challenge of Quality, examining the discrepancies and incongruities between Japanese techno-scientific policy and the citizens’ science movement in post-3/11 Japan”, *Futures*, Vol. 91, pp. 84-89, Aug. 2017.
- ①「科学史のなかでの気象学史: 「歴史の科学化」と社会史視点という両輪」(『天気』, 64 巻 9 号, 625 ~ 630 頁, 日本気象学会, 2017 年 9 月).
- ①書評「ナオミ・クライン著『これがすべてを変える: 資本主義 VS. 気候変動 上』(幾島幸子, 荒井雅子訳)」(『週刊読書人』, 第 3216 号, 読書人, 2017 年 11 月).
- ②『軍事研究の歴史における戦前・戦後の技術の連続性を考える(神戸 STS 叢書: シリーズ 14)』(〈慎蒼健〉, 116 頁, 神戸 STS 研究会, 2017 年, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「戦後日本の海外技術援助・協力に関する科学技術史研究」研究集会資料集]).

土田 哲夫

- ③「『21 世紀の東アジアと歴史問題: 思索と対話のための政治史論』へのコメント」(第 11 回国際セミナー「現代中国と東アジアの新環境: 史料・認識・対話」, 於: 大阪大学豊中キャンパス, 2017 年 8 月 26 日).
- ③「中国国民党の留ソ派とその活動」(日本現代中国学会第 67 回全国学術大会, 於: 愛知大学名古屋キャンパス, 2017 年 10 月 29 日).

坪井 祐司

- ① “Contestation of Visions for the Malayan Decolonisation in the Malay Media Space”, Santiago, F. A. and Alfonso, I. C. B (eds), *The Malay World: Connecting the Past and the Present*, pp. 1-15, Philippine Historical Association, 2017.
- ①「2 東南アジアにおける地域と国家の形成 (～14 世紀)」(「3 交易の

時代と港市の繁栄（15～17世紀）」、「4 近世国家群の展開と再編（18～19世紀）」、古田元夫編著『東南アジアの歴史』、21～77頁、放送大学教育振興会、2018年3月）。

① “An alternative vision of Malayan decolonisation from the perspective of Muslim intellectuals in Singapore”, Tokoro Ikuya and Tomizawa Hisao (eds), *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia* (Vol.2) : *Perspectives from Indonesia, Malaysia, The Philippines, Thailand, and Cambodia*, pp. 147-169, Research Institute of Languages and Culture of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, 2018.

② 『『カラム』の時代 IX：マレー・ムスリムの越境するネットワーク 2』（〈山本博之〉、90頁、京都大学東南アジア地域研究研究所、2018年）。

③ “Singapore as a centre of the Malay media space during the colonial period”, National Library of Singapore, 8 Mar. 2018.

寺田 浩明

①（文竣映訳）「明清中国의 民事裁判의 実態와 性格」（韓国法史学会編『法史学研究』、第56号、9～55頁、図書出版民俗園、2017年10月）。

②『中国法制史』（384頁、東京大学出版会、2018年）。

③「文明を跨いだ法の語り方：中国法制史の講義経験を踏まえて」（法制史学会近畿部会 新年会（第451回例会）、於：ハートンホテル心斎橋、2018年1月21日）。

土肥 祐子

①「乳香考：李金の乱（1165年）と科買」（『南島史学』、第85号、13～26頁、2017年11月）。

富澤 芳亜

①「在華紡勤務27年の回顧（その2）：三好静一郎氏（豊田紡織廠）インタビュー」（『近代中国研究彙報』、〈桑原哲也〉、第40号、49～71頁、（公財）東洋文庫、2018年3月）。

③「近代中国の労働組織：鉱業における請負労働制度について・開瀾、中興炭鉱の事例」（社会経済史学会第86回全国大会、於：慶應義塾大学三田キャンパス、2017年5月28日）。

中兼 和津次

- ①「実証的社会科学のカタチ」(『比較経済体制研究』, 第23号, 61～64頁, 比較経済体制研究会, 2017年5月).
- ①「中国社会のミクロ的研究に向けて」(慶應義塾大学東アジア研究所・現代中国研究センター2017年度国際シンポジウム, 於: 慶應義塾大学三田キャンパス, 2017年12月16日).
- ③「中国における地方過剰投資の政治経済学: 省別パネルデータによる実験的分析」(アジア政経学会春季大会, 於: 一橋大学, 2017年6月24日).
- ③“Politico-economics of Over-investment in Regional China: An Experimental Study based on Provincial Panel Data”, KEA-APEA conference, Korea University: Seoul, 14 July 2017.
- ③「空想から現実へ: マルクス, レーニン, スターリン, 毛沢東, 鄧小平に見られる社会主義像の変遷」(現代中国学会全国大会, 於: 愛知大学, 2017年10月28日).

中見 立夫

- ①「モリソン文庫の来歴と魅力」(岡本隆司編『G・E・モリソンと近代東アジア: 東洋学の形成と東洋文庫の蔵書』, 1～42頁, 勉誠出版, 2017年9月, [座談会: 斯波義信・濱下武志・平野健一郎・中見立夫・岡本隆司]).
- ①“Some Remarks on the Mongolian Sources Deposited in Japan”, *МОНГОЛЧУУДЫН СОЁЛЫН ӨВ: ГАР БИЧМЭЛ, АРХИВЫН БАРИМТЫН ЦУГЛУУЛГА* / II, Олон улсын эрдэм шинжилгээний хурал / (Ulaanbaatar: Mongolian Academy of Sciences, Institute of History and Archaeology, & ST. Petersburg: Russian Academy of Sciences, Institute of Oriental Manuscripts), pp. 141-146, 2017.
- ② *Shih-lu / Sillok / Thực Lục / Jitsuroku in Modern East Asia ACTA ASIATICA*, Bulletin of the Institute of Eastern Culture, No. 114, 93p, The Tôhō Gkkai, 2018.
- ③「日本所蔵与蒙古相關文献資料概述」(第二届蒙古文文献国際学術研討会, 於: 中央民族大学文華楼 1446 會議室, 2017年11月4日).

中村 元哉

- ②『対立と共存の日中関係史: 共和国としての中国 (東アジアの近現代史第2巻)』(312頁, 講談社, 2017年).

②『日中終戦と戦後アジアへの展望（日中戦争の国際共同研究6）』（波多野澄雄，久保亨），320 頁，慶應義塾大学出版会，2017 年）。

長沢 栄治

①「アラブ詩における非暴力主義の伝統：中東と日本の平和主義を考える（続き）」（『詩人会議』，第 56 巻 2 号，84～88 頁，詩人会議，2018 年 2 月）。

③「中東の「国のかたち」を作る三つの力とその行方」（アジア経済研究所国際シンポジウム「不安定な中東と再建・再生への道」，於：国連大学ウ・タント国際会議場，2017 年 12 月 19 日）。

③「百年後の中東に平和はあるか：国のかたちと地域の歴史を振り返る」（日本学術振興会カイロ研究連絡センター 2017 年度第 9 回定例懇話会，於：日本学術振興会カイロ研究連絡センター，2018 年 3 月 15 日）。

永田 雄三

①書評「坂本勉著『イスタンブール交易圏とイラン：世界経済における近代中東の交易ネットワーク』」（『社会経済史学』，第 83 巻第 1 号，147～149 頁，社会経済史学会，2017 年 5 月）。

長縄 宣博

①「反帝国主義の帝国：イスラーム世界に連なるソヴィエト・ロシア」（宇山智彦責任編集『越境する革命と民族（ロシア革命とソ連の世紀 5）』，179～203 頁，岩波書店，2017 年 10 月）。

① “Transimperial Muslims, the Modernizing State, and Local Politics in the Late Imperial Volga-Ural Region”, *Kritika: Explorations in Russian and Eurasian History*, Vol. 18, No. 2, pp. 417-436, Bloomington: Slavica, 2017.

②『イスラームのロシア：帝国・宗教・公共圏 1905-1917』（427 頁，名古屋大学出版会，2017 年）。

③ “Mutinous Intermediaries? Muslim Chinovniki in the 1905 Revolution”, At the 18th Annual Conference of the Central Eurasian Studies Society, Seattle, Washington, USA, 7 Oct. 2017.

③ “Connecting Wars, Regathering an Empire: The Role of Volga Tatars in the Bolsheviks’ Conquest of Central Asia”, At the 49th Annual Convention of the Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, Chicago, USA, 10 Nov. 2017.

新村 容子

①「『王立アヘン委員会』とモリソン・パンフレット」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界(東洋文庫論叢第81)』(改定増補), 189～215頁, (公財)東洋文庫, 2017年9月).

①「モリソン・パンフレットより見る20世紀初頭アヘン追放運動」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界(東洋文庫論叢第81)』(改定増補), 217～277頁, (公財)東洋文庫, 2017年9月).

西 英昭

①「岡田朝太郎の欧州留学について」(『法政研究』, 84巻1号, 238～217頁, 九州大学法政学会, 2017年7月).

②『近代中華民国法制の構築: 週刊調査・法典編纂と中国法学』(404頁, 九州大学出版会, 2018年).

林 俊雄

①「加藤九祚先生の思い出」(『ユーラシア研究』, 第56号, 38～41頁, ユーラシア研究所, 2017年8月).

①「モンゴル中北部の鹿石」(『考古学研究』, 第64巻第2号(通巻254号), 112～114頁, 考古学研究所, 2017年9月).

①「中央アジアにおける農耕の起源と展開」(アジア考古学四学会編『農耕の起源と拡散(アジアの考古学3)』, 273～285頁, 高志書院, 2017年10月).

③“Fire-steels in Mediaeval Eastern Eurasia”, III International Congress of Medieval Archaeology of the Eurasian Steppes “Between East and West: the movement of cultures, technologies and empires”, Vladivostok, Far Eastern Branch of Russian Academy of Sciences, Institute of History, Archaeology and Ethnography, 2 May 17.

③“On the Dating of the So-called Polychrome Ornaments Incrusted with Red Stones: Concerning the Controversy between I. P. Zasetkaya and A. K. Ambroz”, Actual Problems of Archaeology and Ethnology of Central Asia, Ulan-Ude, The Buryat Scientific Center, Siberian Branch of Russian Academy of Sciences, 4-6 Dec. 2017.

原山 隆広

- ③ “Taḡnīyāt tahrīr al-wathā’iq al-raqqīyah (皮紙文書の作成技法)”, al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru’an tārīkhīyah mutaḡāṭī’ah, al-Maktabah al-Waṭanīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.

馬場 英子

- ① 「『月唐』探し顛末」(『颶風』, 第56号, 20～45頁, 颶風の会, 2017年10月).
- ① 「活在艾伯華《中国民間故事類型》裏的鍾敬文与曹松葉」(黄家庭, 王穎主編『東海發展研究(2017)』, 91～98頁, 海洋出版社, 2018年3月).
- ③ 「中国舟山の暮しに生きる黄魚(キグチ)と帶魚(タチウオ)」(2017年度(韓国)比較民俗学会 韓日共同学会議「人間と動物の民俗世界」, 於: 韓国国立民俗博物館子供博物館(ソウル市), 2017年8月25日).

平勢 隆郎

- ① 「楚国世族の邑管領と呉起変法」(谷中信一編『中国出土資料の多角的研究』, 371～395頁, 汲古書院, 2018年3月).
- ② 『東方文化学院(東京研究所)研究の風景(東洋学研究情報センター叢刊第26輯)』(〈野久保雅嗣〉, 421頁, 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター, 2018年).

平野 健一郎

- ① 「平戸におけるジョン・セーリス: 一七世紀の国際移動と国際交流」(葉柳和則編著『長崎: 記憶の風景とその表象』, 201～223頁, 晃洋書房, 2017年4月).
- ① 「モリソンと会った日本人」(『東洋見聞録: G. E. モリソン特集号』, 18～19頁, (公財)東洋文庫, 2017年).

弘末 雅士

- ① 「女性の神話化: 東南アジアの王統記が語る王国の滅亡と女性」(『歴史学研究会』, 2017年7月号(No. 959), 25～35頁, 歴史学研究会, 2017年7月).
- ① 「エスノツーリズム」(『オーストラリア・アジア研究紀要』, 第2号, 29～31頁, 追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所, 2018年3月).

②木村靖二・岸本美緒・小松久男編『詳説世界史研究』（576頁，山川出版社，2017年，[共同執筆]）。

②『海と陸の織りなす世界史：港市と内陸社会』（354頁，春風社，2018年）。

深沢 眞二

①「芭蕉の「初雪」」（『国語国文』，86巻10号（通巻988号），31～45頁，京都大学文学部国語学国文学研究室，2017年10月）。

①「「稗負ふ」歌仙注釈」（『近世文学研究』，新編第2号，17～42頁，文学史探究の会，2017年12月）。

①「『城西聯句』の諸本（下）」（『かがみ』，第48号，44～73頁，大東急記念文庫，2018年3月）。

藤井 省三

①「東山彰良《流》中の台湾表象」（『聯合文学』，第392号，94～99頁，聯合文学，2017年6月）。

①「魯迅文学日語翻訳思考：以竹内好的《呐喊》爲中心」（『華東師範大学学報（哲学社会科学版）』，〈林敏洁〉，2018年第1期，73～78頁，華東師範大学，2018年1月）。

①「あとがき：中国語圏文学三十三年の夢」（『越境する中国文学』編集委員会編『越境する中国文学』，647～662頁，東方書店，2018年2月）。

②翻訳『李昂著『海峡を渡る幽霊』』（267頁，白水社，2018年）。

藤田 忠

①「漢代の救恤政策について：『罷癘』を中心として」（中国古代史研究会編『中国古代史研究（第8）：創立七十周年記念論文集』，319～347頁，研文出版，2017年11月）。

古田 和子

①「経済史から見た華僑華人」「上海」（華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』，66～67，266～267頁，丸善出版，2017年11月）。

①「アジア経済史から見た中国」（『三田学会雑誌』，110巻4号，1～25頁，慶應義塾経済学会，2018年1月）。

② *Imitation, Counterfeiting and the Quality of Goods in Modern Asian History*,

〈Linda Grove eds.〉, 298p, Springer Singapore, SGP, 2017.

③ “Imitation, Counterfeiting and the Quality of Goods in Modern Asian History”, (東京大学経済史研究会, 於: 東京大学, 2017 年 4 月 10 日).

③ 「中国経済とはどのような経済か? : アジア経済史から見る」((公財) 東洋文庫アカデミア講座 2017 年度秋冬期: 第 4 回現代中国理解セミナー, 於: 三菱商事ビル, 2017 年 10 月 4 日, [共催: 東京新聞]).

弁納 才一

① 「南京国民政府時期中国における合作社と農村社会の特質: 江蘇省丹陽県・無錫県を例として」(『史学研究』, 第 296 号, 1~24 頁, 広島史学研究会, 2017 年 6 月).

① 「日中全面戦争勃発前後における山東省農村経済の変動: 惠民県孫家廟莊を例として」(『日本海域研究』, 第 49 号, 49~65 頁, 金沢大学環日本海環境研究センター, 2018 年 3 月).

① 「華北農村訪問調査報告 (12): 2016 年 9 月, 雲南省・河北省・山西省」(『日本海域研究』, 第 49 号, 89~98 頁, 金沢大学環日本海環境研究センター, 2018 年 3 月).

寶劍 久俊

① 「農民專業合作社の展開とその経済的機能」(田島俊雄・池上彰英編『WTO 体制下の中国の農業・農村問題』, 309~340 頁, 東京大学出版会, 2017 年 8 月).

① 「中国農村公共政策与收入差距的長期趨勢 (1988-2013 年)」(李実・岳希明・史泰麗・佐藤宏等編『中国收入分配格局的最新变化: 中国居民收入分配研究 V』, 〈佐藤宏〉, 161~189 頁, 中国財政経済出版社 (北京), 2018 年 3 月).

② 『産業化する中国農業: 食料問題からアグリビジネスへ』(270 頁, 名古屋大学出版会, 2017 年).

細谷 良夫

① 「平南藩・尚可喜の縁戚関係: 広東支配の一齣」(『日中韓周縁域の宗教文化 IV』, 5~28 頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2018 年 3 月).

堀内 賢志

- ①「ロシア極東開発省の政策とリーダーシップ：民間投資誘致と人的資本の発展」（『ロシア・ユーラシアの経済と社会』，第 1020 号，2～23 頁，ユーラシア研究所，2017 年 9 月）。
- ①「ロシアの「東方シフト」と日ロ経済協力の展望」（『国際問題』，No. 667，38～48 頁，日本国際問題研究所，2017 年 12 月）。

牧野 元紀

- ②『ナマズが暴れた!? 安政の大地震展：大災害の過去・現在・未来』（33 頁，（公財）東洋文庫，2017 年，〔執筆項目：7，12，17〕）。
- ②『東方見聞録展 モリソン文庫の至宝』（33 頁，（公財）東洋文庫，2017 年，〔執筆項目：「モリソン文庫がやって来た！：石田幹之助の尽力」，「モリソン文庫の特徴」，14～18〕）。
- ②『ハワイと南の島々展』（33 頁，（公財）東洋文庫，2018 年，〔執筆項目：「ハワイ王国史」，「ハワイの日本人移民」，「ハワイのプリンセスと日本のプリンスに縁談？」，「ポリネシア・ミクロネシア・メラネシアの島々」，「南西諸島：薩南諸島と琉球諸島」，1～6，9～10，12～13，16，18〕）。

松井 太

- ①「ジャライル朝シャイフ＝ウワイズ発行モンゴル語・ペルシア語合璧命令文書断簡 2 点」（『内陸アジア言語の研究』，〈Imād al-Dīn Šayḥ al-Hukamā'ī・渡部良子〉，32，49～149 頁，中央ユーラシア学研究会，2017 年 10 月）。
- ①“Mazar Tagh Harabesi' nden getirilen Eski Türkçe-Çince bir lügatçe”，Osman Fikri Sertkaya, SüerEker, Hatice Şirin and Erdem Uçar eds., *Prof. Dr. Talât Tekin hatıratı*, Vol. 2, pp. 679-696, İstanbul: Çantay, 2017.
- ①“An Old Uigur Account Book for Manichaean and Buddhist Monasteries from Temple a in Qocho”，Team “Turfanforschung” ed., *Zur lichten Heimat: Studien zu Manichäismus, Iranistik und Zentralasienkunde im Gedenken an Werner Sundermann*, pp. 409-420, Wiesbaden: Harrassowitz, 2017.
- ①（王平先訳）「榆林窟第 16 窟叙利亚字回鹘文景教徒題記」（『敦煌研究』，2018 年第 2 期（総第 168 期），34～39 頁，敦煌研究院，2018 年 3 月）。

②『敦煌石窟多言語資料集成』（〈荒川慎太郎編〉，521 頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017 年）。

松重 充浩

①「第一次世界大戦後の大連日本人社会における中国認識：総合雑誌『満蒙』を事例として」（田中仁編『21 世紀の東アジアと歴史問題：思索と対話のための政治史論』，106～122 頁，法律文化社，2017 年 4 月）。

①「『近代中国都市案内集成 大連編』に記録された中国人」（『近代中国都市案内集成第 43 巻』，3～25 頁，ゆまに書房，2017 年 4 月，〔松重充浩・木之内誠・孫安石監修〕）。

①「新法鉄道・錦瑗鉄道の敷設問題とモリソン：東北「新政」の展開と外国語メディア」（斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 81）』（改訂増補），51～61 頁，（公財）東洋文庫，2017 年 9 月）。

松永 泰行

③“A Processual Sociological Perspective on Sectarian Insurgency in Iran's Two Border Areas”, Conference: Rethinking Nationalism, Sectarianism and Ethno-Religious Mobilisation in the Middle East, University of Oxford, 28 Jan. 2018.

松丸 道雄

②『甲骨文の話（あじあブックス 079）』（240 頁，大修館書店，2017 年）。

松村 史紀

①「中国と国際連合」，山本武彦・玉井雅隆編『国際組織・国際制度（現代国際関係学叢書第 1 巻）』（131～150 頁，志学社，2017 年 9 月）。

①「サンフランシスコ講和会議と中ソ同盟（1949-52）：東側世界の「全面講和」外交（1）」（『宇都宮大学国際学部研究論集』，第 44 号，59～79 頁，宇都宮大学国際学部，2017 年 9 月）。

①「サンフランシスコ講和会議と中ソ同盟（1949-52）：東側世界の「全面講和」外交（2）」（『宇都宮大学国際学部研究論集』，第 45 号，107～126 頁，宇都宮大学国際学部，2018 年 2 月）。

三浦 徹

- ① “Transregional Comparison of the Waqf in Pre-modern Times: Japan, China, and Syria”, Miura Toru (ed.), *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm Practices in Religious and Familial Donations* (Toyo Bunko Research Library 19), pp. 263-274, The Toyo Bunko, Mar. 2018.
- ② *Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm Practices in Religious and Familial Donations* (Toyo Bunko Research Library 19), 275p, The Toyo Bunko, 2018.
- ③ “Dirāsāt tārīkh al-‘ālam wa-tadrīs-hu fī al-Yābān (日本における世界史研究とその教育)”, al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru’an tārīkhīyah mutaqaṭī‘ah, al-Maktabah al-Waṭanīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.
- ③ “Wathā’iq ‘uqūd al-ruqūq fī Dār al-Kutub al-Sharqīyah bi-Tokyo, wa-mumayyizāt-ha al-farīdah (東洋文庫所蔵の皮紙契約文書: その比類なき特徴)”, al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru’an tārīkhīyah mutaqaṭī‘ah, al-Maktabah al-Waṭanīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.

三田 昌彦

- ① 「中世初期インド (600-1200 年)」(インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』, 248～249 頁, 丸善, 2018 年 1 月)。
- ② 『新詳世界史 B』(〈川北稔 ほか〉, 336 頁, 帝国書院, 2018 年)。
- ③ 「関係性の中の国家: インド中世の非領域的国家システム」(2017 年度 KINDAS 研究グループ 1-A 「南アジアの長期発展径路」第 2 回研究会, 於: 京都大学, 2018 年 1 月 27 日)。

宮脇 淳子

- ② 『封印された中国近現代史: 教科書には書かれていない』(315 頁, ビジネス社, 2017 年)。
- ② 『日本人が知らない満洲国の真実: 封印された歴史と日本の貢献 (扶桑社新書 257)』(367 頁, 扶桑社, 2017 年, [監修: 岡田英弘])。
- ② 『モンゴル力士はなぜ嫌われるのか: 日本人のためのモンゴル学』(237 頁, WAC BUNKO, 2017 年)。
- ② 『残念すぎる朝鮮 1300 年史 (祥伝社新書 528)』(〈倉山満〉, 348 頁, 祥

伝社, 2018 年).

② Монголын Түүх (モンゴルの歴史), өнө эртний нүүдэлчдээс өнөө үеийн Монгол улс хүртэл, 272р, Улаанбаатар хот : Соёмбо Принтинг, 2017 он.

村上 衛

① 書評「古泉達矢著『アヘンと香港：1845-1943』」(『史学雑誌』, 126 編第 4 号, 76～83 頁, 史学会, 2017 年 4 月).

① 書評「彭浩著『近世日清通商関係史』」(『社会経済史学』, 第 83 巻第 1 号, 141～143 頁, 社会経済史学会, 2017 年 5 月).

①「アヘン問題とモリソン」(岡本隆司編『G・E・モリソンと近代東アジア：東洋学の形成と東洋文庫の蔵書』, 205～238 頁, 勉誠出版, 2017 年 9 月, [(公財) 東洋文庫監修]).

①「清末中国における秩序再編とアウトロー集団」(『現代中国研究』, 第 40 号, 6～24 頁, 中国現代史研究会, 2018 年 2 月).

③ “Trade and “Pirates” on the West River during the Late Qing Period”, International Workshop 2018: The Hydrosphere and Socioeconomics in Modern Asia Exploring a New Regional History Using a Database and Spatial Analysis, Kojima-hall, Graduate School of Economics, The University of Tokyo, 3 Feb. 2018.

村田 雄二郎

①「チャイニーズネス：中国人の一体感」(中国文化事典編集委員会編『中国文化事典』, 丸善出版, 2017 年 4 月, [項目執筆]).

①「康有為『大同書』から見る中国の民族問題」(宮嶋博史・裴亢燮編『東アジアから世界を見れば』, 370～395 頁, ノモブックス (ソウル), 2017 年 6 月, [韓国語]).

①「孫文以後の大アジア主義：民国期中国における日本認識をめぐる」(日本孫文研究会編『孫文とアジア太平洋：ネイションを越えて(孫中山記念会研究叢書Ⅶ)』, 27～52 頁, 汲古書院, 2017 年 11 月).

①「戦後日本の辛亥革命研究と辛亥百年」(代田智明監修, 谷垣真理子・伊藤徳也・岩月純一編『戦後日本の中国研究と中国認識：東大駒場と内外の視点』, 257～275 頁, 風響社, 2018 年 3 月, [分担執筆]).

②『展望当代中国研究：檔案資料的内外』(〈公益財団法人東洋文庫超域亞洲研究部門現代中国研究班主編〉, 280 頁, (公財) 東洋文庫, 2018 年,

[企画及び編集]).

毛里 和子

- ①「グローバル中国との付き合い方」(高橋五郎編『新次元の日中関係』, 41～65 頁, 日本評論社, 2017 年 9 月, [愛知大学国際中国学センターの中国講座]).
- ①「シンポジウム「和解学の創成」: コメント」(『ワセダ アジアレヴュー』, 第 20 号, 33～36 頁, 明石書店, 2018 年 1 月).
- ②『日中漂流 グローバル・パワーはどこへ向かうか (岩波新書 1658)』 (272 頁, 岩波書店, 2017 年).

本野 英一

- ①「在華外国人側より見た「大開会審公廨案 (1905)」に関する一考察」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』 (改訂増補), 327～363 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 9 月).
- ①「辛亥革命前夜上海周辺地域の通貨信用制度 1900-12: 莊票の兌換期限問題を中心に」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』 (改訂増補), 365～405 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 9 月).

守川 知子

- ① (監訳)「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥーシー著『被造物の驚異と万物の珍奇 (11・完)』」(『イスラーム世界研究』第 11 巻, 322～386 頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2018 年 3 月, [ペルシア語百科全書研究会訳注]).
- ②「西アジアのキャラバン・ルートと巡礼者」(弘末雅士編『海と陸の織りなす世界史: 港市と内陸社会』, 211～224 頁, 春風社, 2018 年).
- ③「改宗者と 17 世紀の西アジア社会」(第 72 回羽田記念館定例講演会, 於: ユーラシア文化研究センター, 2017 年 12 月 2 日).
- ③「近世西アジア社会における「異教徒」と宗教的社会変容」(シンポジウム「歴史の智慧をどう活かすか? : 21 世紀の日本がアジアと共生をめざすための歴史研究」, 於: 国際基督教大学アジア文化研究所, 2017 年 12 月 9 日, [国際基督教大学アジア文化研究所, JFE21 世紀財団共催]).
- ③“Muhammad Rabi‘ b. Muhammad Ibrahim: A Muslim Traveller to the

Theravada Buddhist Society”, International Workshop on “Trades, Migration, Belief: Crossing Early Modern Asia, 16th-18th Centuries”, ‘L’ Orientale’ University of Naples, 12 Mar. 2018.

矢島 洋一

①「一万八千の世界」(『月刊大和路ならら』, 2018年1月号(232号), 38～39頁, 地域情報ネットワーク, 2018年1月).

柳澤 明

①「17～19世紀の露清外交と媒介言語」(『北東アジア研究』, 別冊第3号, 147～162頁, 島根県立大学北東アジア地域研究センター, 2017年9月).

③「十八世紀土爾扈特部派往西藏の三個使団」(『清朝政治發展変遷研究』国際学術研討会, 於: 復旦大学歴史地理研究中心, 2017年6月17日).

③“Čing ulus bolon oros ulus-un yadaγadu qarilčayan-du qolboydaqu mongyol bičig (清露外交中におけるモンゴル語)”, (中央民族大学蒙古語言文学系「第二届蒙古文文献国際学術研討会」, 於: 中央民族大学, 2017年11月4日).

柳田 征司

②『日本語の歴史 補巻 禁止表現と係り結び』(208頁, 武蔵野書院, 2017年).

柳谷 あゆみ

①「イブン・アルアスィール著『アターベク王朝モスルの諸王の歴史』写本(仏国立図書館蔵 ARABE1898 旧番号 ARAB. 818)再考」(『東洋学報』, 第99巻第1号, 91～118頁, (公財)東洋文庫, 2017年6月).

②(翻訳)『ザカリーヤー・ターミル著『酸っぱいブドウ／はりねずみ』(エクス・リブリス)』(218頁, 白水社, 2018年, [原書: アラビア語]).

③「どこかの誰かの奇妙な話／自分たちの国の話: シリア人が書くシリア」(中東現代文学研究会シンポジウム「《文学》からシリアを考える: 独裁, “内戦”, そして希望」, 於: 東京大学東洋文化研究所, 2017年6月17日, [『中東現代文学リブレット3』, 48～63頁], 中東現代文学研究会, 2018年3月).

矢吹 晋

- ①「朝河貫一と G. E. モリソン：『日露衝突』から『日本之禍機』まで」（斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 81）』（改訂増補），23～49 頁，（公財）東洋文庫，2017 年 9 月）。
- ②『習近平の夢：台頭する中国と米中露三角関係』（286 頁，花伝社，2017 年）。
- ③「北朝鮮核問題の根本的解決は統一朝鮮にある」（21 世紀中国総研編『中国情報ハンドブック 2017』，60～84 頁，蒼蒼社，2017 年）。
- ④『沖縄のナワを解く（情況新書 012）』（223 頁，世界書院，2017 年）。
- ⑤『中国の夢：電腦社会主義の可能性』（228 頁，花伝社，2018 年）。

山内 民博

- ①「朝鮮時代後期請願文書のなかの移来者：他邑からの居住地移動にともなう課役紛争事例の検討」（『韓国朝鮮の文化と社会』，第 16 号，26～59 頁，風響社，2017 年 10 月）。
- ②「朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的検討（3）：黄海道鳳山郡僧屠戸籍冊」（『資料学研究』，Vol. 15，45～60 頁，新潟大学大学院現代社会文化研究科，2018 年 3 月）。

山口 元樹

- ①「インドネシアのイスラーム運動とアラブ世界：オランダ植民地期末期におけるナショナリズムをめぐる論争」（南山大学アジア・太平洋研究センター主催・東南アジア学会中部例会共済ワークショップ「東南アジアのイスラーム・メディアから見た世界：1920～30 年代を中心に」，於：南山大学，2017 年 10 月 14 日）。
- ②“The Transformation of al-Irshād in the Emerging Nation-State: Indonesian Arabs and Accommodation to the Host Society”，*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, Vol. 75, pp. 143-176, The Toyo Bunko, Mar. 2018.
- ③“Education of Arabs in the Dutch Colonial Period: Response to Progress (Kemadjoean) in Indonesian Society”，International Conference on the Dynamics of Hadhramis in Indonesia, Royal Kuningan Hotel, Jakarta, 23 Nov. 2017.

山本 英史

- ①「清代浙江の山林資源紛争：19世紀末の諸暨県を例として」(228～245頁, 2017年3月, [科学研究費補助金 基盤研究(B)「近現代太湖流域農山漁村における自然管理に関する現地調査」研究成果報告書, 課題番号: 25300033, 研究代表者: 佐藤仁史]).
- ③「対明代溺女問題的評価」(国際学術討論会「明朝及其所处歴史時代」, 於: 廊坊師範学院(河北省廊坊市), 2017年5月13日).
- ③「北京老字号料理店の興亡: 全聚徳を例にして」(ワークショップ「中国料理と近現代日本」, 於: 京都大学, 2017年10月24日).

山本 真

- ①「キリスト教の革新運動と教会の政治化」(笹川裕史編『戦時秩序に巣喰う声: 日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争と中国社会』, 307～342頁, 創土社, 2017年8月).
- ①「1940年代四川省の地方民意機関と秘密結社」(四川大学歴史文化学院編『第一届中国社会史論壇会議論文集』, 15～30頁, 2017年9月).
- ①「東マレーシアへの福州人キリスト教徒入植者」(華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』, 302～303頁, 丸善出版, 2017年11月).
- ①「通過基督教伝教師文書解読 20世紀初め閩西社会と革命運動」(厦門大学馬克思主義学院編『馬克思主義在中国的伝播と実践学術検討会論文集』, 162～174頁, 厦門大学馬克思主義学院, 2017年11月).
- ③「近現代, 馬祖列島の歴史・民俗的研究」(国際 workshop 冷戦構造下, 台湾海峡金門・馬祖島の歴史・民俗的研究, 於: 筑波大学人文社会学系棟, 2017年12月9日).

山本 毅雄

- ③「ウィリアム・カーロス・ウィリアムズの「声」を聴く」(日本アメリカ文学会東京支部 2017年度3月例会, 於: 慶応義塾大学三田キャンパス, 2018年3月24日, [http://www.tokyo-als.org/2018/03/march_meeting/]).

湯浅 剛

- ①「ポスト・ソ連空間と周辺世界: 冷戦終結から国際テロの時代の中で」(松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中島毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀3 冷戦と平和共存』, 279～302頁, 岩波書店, 2017年

8 月).

③「ユーラシア国際関係におけるエネルギー・ファクター」(本国際政治学会 2017 年研究大会・部会 14 (市民講座)「ユーラシアのエネルギー安全保障」, 於: 神戸国際会議場, 2017 年 10 月 29 日).

③「上海協力機構 (SCO): 変貌と相対化」(国際シンポジウム「アジアの核・ガヴァナンス・平和」(共催: 広島平和研究所, 長崎大学核廃絶研究センター (RECNA)), 於: 広島国際会議場, 2018 年 3 月 17 日).

吉澤 誠一郎

①「白鳥庫吉の東洋史学: 史学史的考察として」(渡邊義浩編『中国史学の方法論』, 85~96 頁, 汲古書院, 2017 年 5 月).

①「中華民国初期における大総統就任式典」(『東洋史研究』, 第 76 巻第 1 号, 79~112 頁, 東洋史研究会, 2017 年 6 月).

①「中華民国顧問グッドナウによる国制の模索」(斯波義信・岡本隆司編『モリソンパンフレットの世界 (東洋文庫論叢第 81)』(改訂増補), 83~106 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 9 月).

①「民国初年の対日ボイコットにおける東南アジア華僑と孫文」(日本孫文研究会編『孫文とアジア太平洋: ネイションを越えて』, 235~252 頁, 汲古書院, 2017 年 11 月).

③「辛亥革命にみる軍人の忠誠と反逆」(第 67 回日本西洋史学会小シンポジウム「忠誠のゆくえ: 近代移行期における軍事的エトスの比較史」, 於: 一橋大学, 2017 年 5 月 21 日).

吉田 建一郎

①「中日戦争時期日本対寒羊和寿陽羊的調査活動」(『近代中国北方経済与社会転型学術研討会論文集』, 80~85 頁, 復旦大学歴史地理研究中心, 2017 年 9 月).

①(翻訳)「樊如森著「1871~1931 年の日中貿易」」(『経済史研究』, 第 21 号, 87~103 頁, 大阪経済大学日本経済史研究所, 2018 年 1 月).

①「戦間期日ソ茶貿易史研究の深化にむけて」(『アジア研究』, 別冊 7, 19~26 頁, 静岡大学人文社会科学部・アジア研究センター, 2018 年 3 月).

③「中日戦争時期日本対寒羊和寿陽羊的調査活動」(近代中国北方経済与社会転型学術研討会, 於: 復旦大学, 2017 年 9 月 23 日).

吉田 豊

① “The Xiapu 霞浦 Manichaean text Sijizan 四寂讚 ‘Praise of the Four Entities of Calmness’ and its Parthian original”, Team Turfanforschung ed., *Zur lichten Heimat. Studien zu Manichäismus, Iranistik, und Zentralasienkunde im Gedenken an Werner Sundermann* (Iranica 25), pp. 719-736, Harrassowitz Verlag, Sept. 2017.

① “Relationship between Sogdiana and Turfan during the 10th - 11th centuries as reflected in Manichaean Sogdian texts”, (Journal of the International Silk Roads Studies 絲綢之路研究, Vol. 1, pp. 113-125, 生活・読書・新知三聯書店, 2017 年 10 月).

① “Middle Iranian Terms in the Xiapu Chinese Texts: Four Aspects of the Father of Greatness in Parthian”, S. N. C. Lieu (ed.), *Manichaeism, East and West*, pp. 249-256, Turnhout: Brepols, 2017.

① 「貨幣の銘文に反映されたチュルク族によるソグド支配」(『京都大学文学部紀要』, 第 57 号, 155～182 頁, 2018 年 3 月).

吉水 清孝

① “How Can the Word “Cow” Exclude Non-cows? Description of Meaning in Dignāga’s Theory of Apoha”, *Journal of Indian Philosophy*, Vol. 45, pp. 973-1012, Nov. 2017.

吉水 千鶴子

② *Zhang Thang sag pa ’Byung gnas ye shes, dBu ma tshig gsal gyi ti ka, Part II, Studia Tibetica*, 〈Nemoto Hiroshi, Kano Kazuo〉, No. 49, The Toyo Bunko, 2018.

③ 「チベット語訳による思想伝承の背景：翻訳と教育」(第 62 回国際東方学会会議, 於：日本教育会館, 2017 年 5 月 19 日).

③ “Later Mādhyamikas on logic implicit in MMK I.3 or the negation of arising from other”, International Workshop: Candrakīrti and beyond, Institute for the Cultural and Intellectual History of Asia. Austrian Academy of Sciences, 26 June 2017.

③ “Indian and Tibetan Mādhyamikas on Mūlamadhyamakakārikā I.3 or the negation of arising from other”, The Tsukuba-Hamburg Universities Symposium Series: Buddhist Studies Young Scholars’ Workshop 2018,

Hamburg University, 22 Jan. 2018.

吉村 慎太郎

- ①「イラン環境問題序説：現状と課題の解明に向けて」（『アジア社会文化研究』，第 19 号，107～124 頁，広島大学大学院総合科学研究科アジア社会文化研究会，2018 年 3 月）。

吉村 武典

- ③ “Muqāranat al-ashkāl wa-al-tarz bi al-tawthīq al-‘adalī bayna Fās al-Maghribīyah wa Tūnis (モロッコ・フェスとチュニジアの法的文書に関する形式・様式の比較)”，al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru‘an tārikhīyah mutaqaī‘ah, al-Maktabah al-Waṭanīyah lil-Mamlakah al-Maghribīyah, Rabat, Morocco, 27 Dec. 2017.

六反田 豊

- ①「朝鮮初期の漕運：制度の整備過程と運営実態からみたその歴史的性格」（須川英徳編『韓国・朝鮮史への新たな視座 歴史・社会・言説』，41～59 頁，勉誠出版，2017 年 5 月）。
- ①「第六章 朝鮮初期」（李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編『朝鮮史 1 先史－朝鮮王朝（世界歴史大系）』，288～341 頁，山川出版社，2017 年 10 月）。
- ①「第七章 朝鮮中期」（李成市・宮嶋博史・糟谷憲一編『朝鮮史 1 先史－朝鮮王朝（世界歴史大系）』，342～401 頁，山川出版社，2017 年 10 月）。
- ①「朝鮮初期三浦倭料の調達方式と財源」（『年報朝鮮学』，第 20 号，1～36 頁，九州大学朝鮮学研究会，2017 年 12 月）。
- ③「朝鮮初期三浦倭料の財源と調達方式」（九州史学会平成 29 年度大会，於：九州大学，2017 年 12 月 10 日）。